



**L'NGENI**  
L'NGENI

# 第卅章

— 變幻戰忍、見參 —

（これまで）

大和・飛鳥の地に伝わる「魔王が封印されし墓」――  
墓守となり、これを監視する使命を先祖代々より継いできた本能寺一族。  
その末裔であり、現代に生きるくノ一である主人公・飛鳥もまた、  
一族の掟に従い、墓を暴かんとする魔の者どもとの戦いに身を投じる。

魔王復活を目論む「魔導忍邪衆」から送り込まれる刺客をからくも  
討ち果たしていく飛鳥であったが、そんな彼女の前に  
「四鬼王」のひとり「水鬼姫」が立ちはだかるのであった。



フフフ…

私の名は四鬼王が一角  
水鬼姫

魔王様復活を妨げる  
憎つくき本能寺一族ども…

ここがお前達の  
墓場よ…ツ!!

すいきひ  
水鬼姫

ドオオオ

ジャーマニー  
邪魔忍

そうはいくかつ

お前達の思い通りには  
させないツ…!!

ほんのうじ だいち  
本能寺 大地

ほんのうじ あすか  
**本能寺 飛鳥**

飛鳥ツ

俺の開発した  
プロテクター  
B・A・Pの力を  
見せてやれ!

まかせてっ

お兄ちゃん!

バツ





マクローキーンマン！

カッ  
ッ

パアアッ

高らかな宣言と共に進む、目も眩まんばかりの  
光芒。  
闇を霧散させ尚も広がりを見せる自閃は飛鳥の  
全身を覆い包み、その輪郭を溶かしていく。  
首に架けられたペンダントに模した特殊な  
生体増幅装甲デバイスは、飛鳥の声紋による  
固有のキーワードに反応し、それが  
承認されると変身プロセスへと展開する。

変幻戦忍ツ

アスカ  
見参…ツ!!

さあツ  
いくわよ!!





だがー

水鬼姫は計略を巡らせ、戦闘力の無い兄・大地を標的にし、囚えた兄を盾に飛鳥を卑劣な姦計に陥れた。

ぐああ…っ

お兄ちゃんツ

フフフ  
そこまでよ飛鳥

逆らえばこの男が  
どうなるか判るわね…？

グググ…

飛鳥…あなたは憎つくき  
本能寺一族だけどここのまま  
葬るには惜しいわね…

だから…



私のしもべとしてあげる

なっ…!!?

従順で忠実なくノ一…

ジャーマニー  
邪魔忍の新たな  
一員にね…!!



い、イヤあツ!

んっ

小娘の初心な狼狽を嘲弄しながら水鬼姫は妖しく宣告する。

「フフフ…嫌がるのも今のうちだけよ…すぐにあなたのカラダは拒めなくなり、我等を受け入れるようになるわ。そして、私の寵愛だけを求め、そのために全てを捧げる従順な下僕になるのよ。」

んふ…っ

ふう…んっ

それは魔性の洗礼であった。

冷たく秀麗な水鬼姫の相貌が迫ったと思っ間もなく、飛鳥の初々しく窄められた花唇に、豊熟になまめかしく濡れそぼった艶唇が被さり蛭のごとく激しく吸いついた。

「い、嫌ッ…！」

突然の不埒な所業に激しい衝撃を受ける飛鳥。

敵に、しかも同性に唇を奪われるなどとは

露も思いもせず動転を隠せない。

んっ

んふ……

「バカなこと言わないでッ」

振りほどこうと身を振じらせる飛鳥であったが、

腰を強く引き寄せられ、下肢に割り入れられた膝に

股座を揺さぶられると抗いの力が抜けてしまう。

淫技に長けた魔姫はその隙を逃さず、緩んだ口接

に舌を捻じ込んだ。

蛇の如く蠢く粘舌は、拒むように閉じられた花卉の合わせ目に

ぬるりと潜り込むと腔内で貪婪に暴れまわり、

逃げる飛鳥の瑞々しい舌を容易く追いつめ、巻きつき、

きつく吸い上げる。

ふう……んっ

しっ  
ろ  
おー

ツあああ……

お、お兄ちゃん

絡み合う舌、混じり合う唾液が又チャ又チャと羞恥に耐えない音を響かせ、飛鳥の頭洞に木霊する。

摺り合う粘膜が徐々に同じ体温へ馴染んでいき、

このままひとつに融け合い、水鬼姫の中へと

捕り込まれてしまうような

妖しい感覚が広がっていく。

助け……ッ

やめろおおッ

飛鳥ッ……  
飛鳥あーッ！

ケイイイ



さあ…  
受け取りなさい飛鳥

私からのプレゼントよ

ん…ツ

チュルル

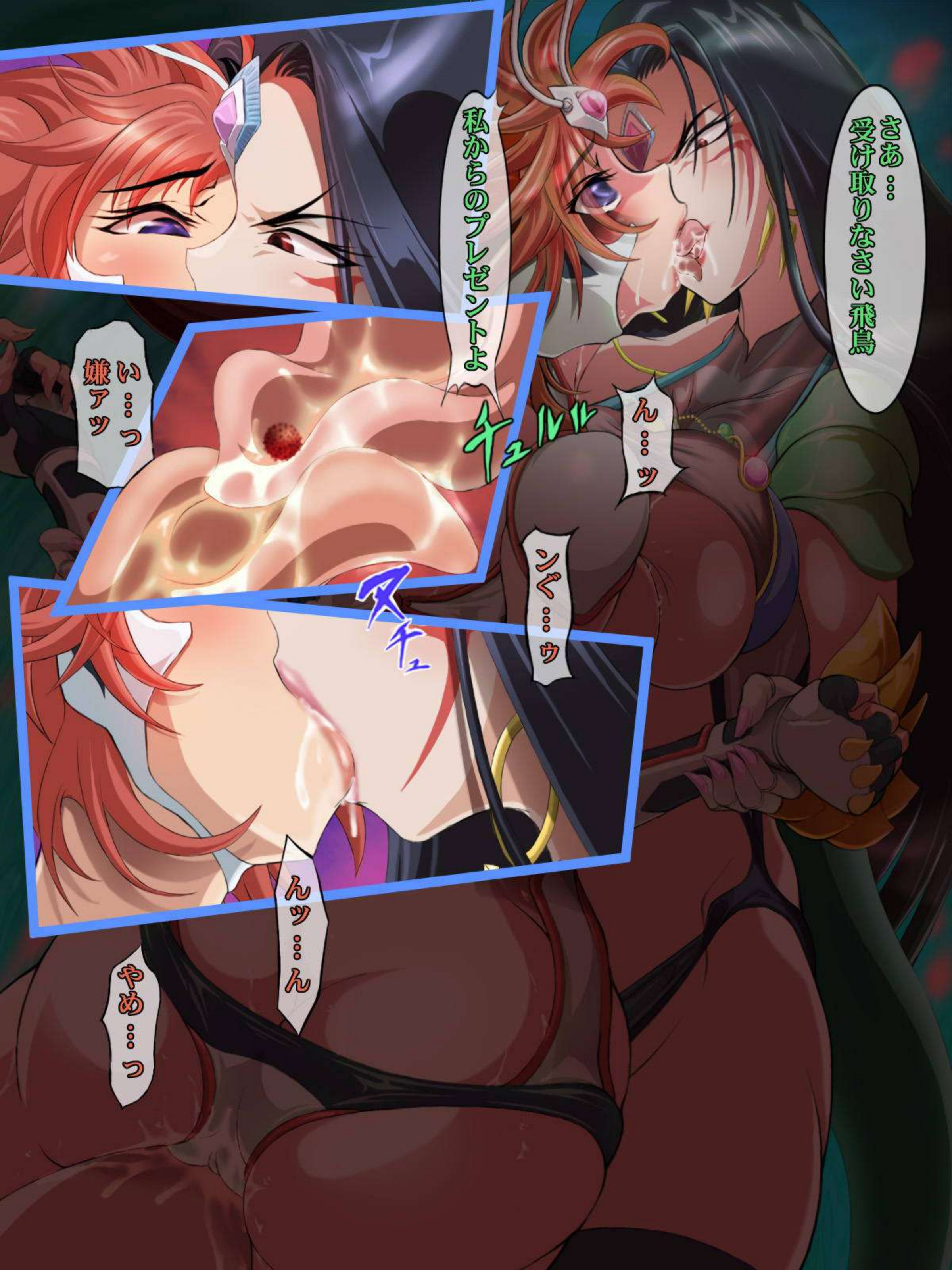
ん…ウ

アキエ

ん…ん

やめ…っ

い…っ  
嫌アツ



ああ……っ

ザグ

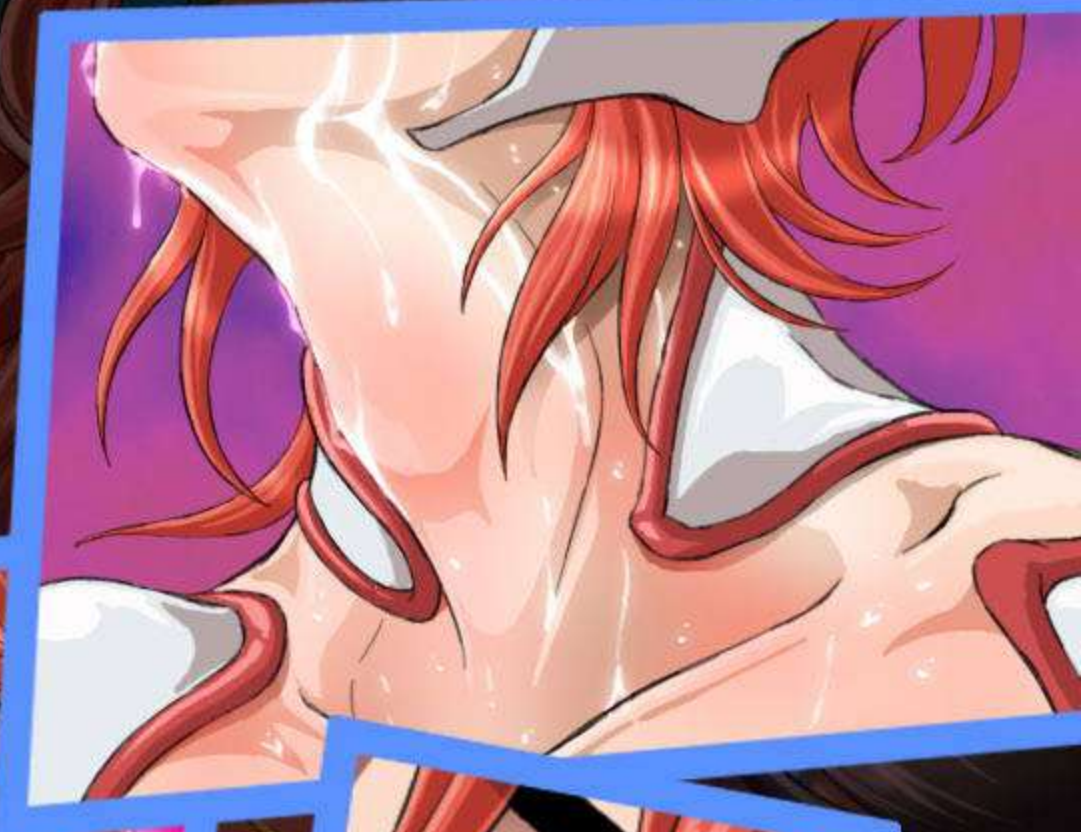
あ……

ググ

な、何……？  
体が……

体が  
変よ……ッ

魔導の秘薬に侵された肉体に激震が走る。  
まるで炉心を点されたかの様な異常な昂ぶりが  
体の奥底から湧き上がり、ドクンドクンと重い  
鼓動となって全身に響き渡る。  
肉体を震わせながら次第に大きく早く鼓を打ち、  
ついに脈動が頂点に達したとき、  
「それ」は訪れた。



あああッ

そッ  
そッ  
そんな…

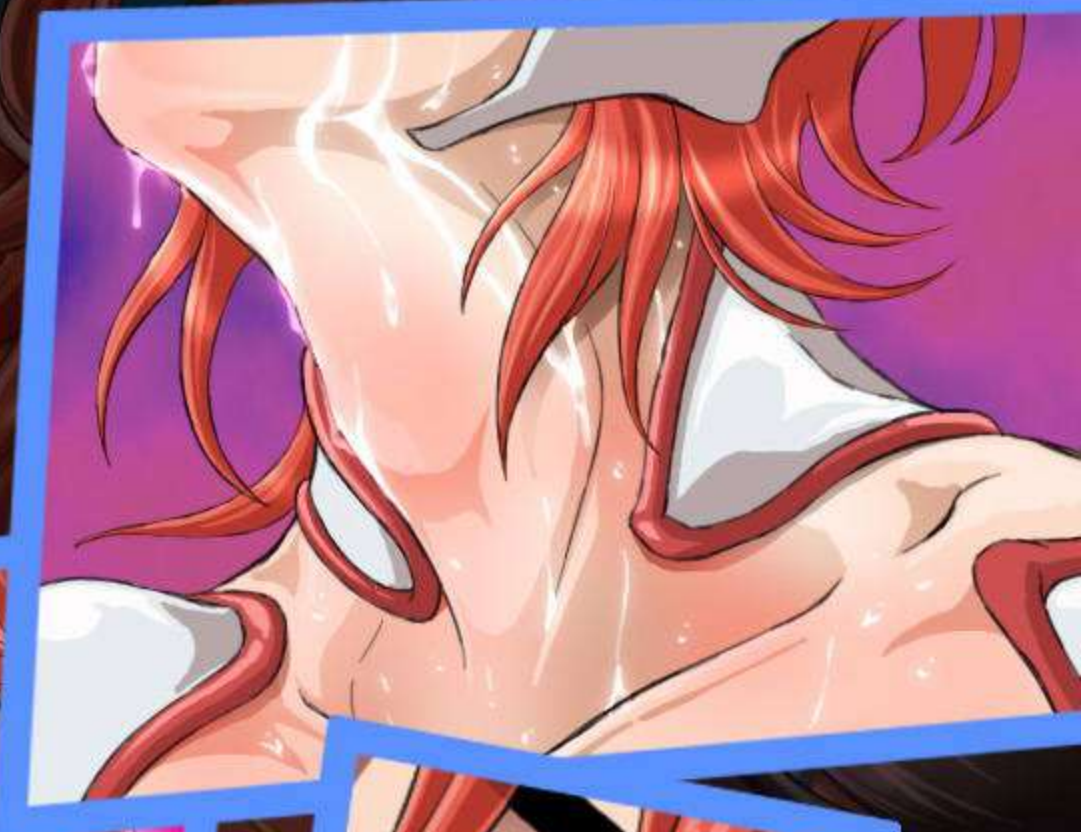
ドクン

ドクン

「ああ…っ、そ、そんなッ」  
己の身に起きつつある得体の知れない状況に  
おののく飛鳥の眼下で、  
年相応に発育の途上であつたなだらかな乳丘が  
大きく迫り上がり、ミチミチと音を立てながら  
凄まじい勢いで膨れ上がっていく。  
常識ではありえない急激な変貌で見る間に視界を  
圧迫していき、やがて表皮がはちきれんばかりに  
膨満しきつた双の肉房はブルンと一際大きく  
震わせて胴幹を叩いた。

フフツ  
始まつたわね…!!





どう…気に入って  
もらえたかしら…？

それが邪魔忍となる  
アタタにふさわしい  
新しい肉体よ…！！

ミチミチ

いツイヤああ  
ああ…！！

ビキィ

ブルンッ



# 第貳章

ジャーマニー

— 邪魔忍 —

不倶戴天ともいうべき化外の妖婦に唇を奪われ、  
外道の方術の餌食となった飛鳥。  
いまだ幼げの残る相貌に相反して熟沃に実ったその肢体  
に、水鬼姫の情炎に滾る視線が突き刺さる。

そして、淫虐の幕が揚がるうとしていた。

フフ…ツ

そのカラダをもっと淫らがましくなるよう磨いてあげる

さあ…いでよツ邪魔忍ども  
お前達の出番よ…!

ジャーマニー



新しい仲間を  
可愛がつてやるがいいわ

たっぷり・・・とび  
びび

そう指令を下した水鬼姫の足元に  
黒々とした影溜まりが映え、おもむろに四方へと散った。  
分かれたれた四体の影法師は揺らめきながら立ち昇り、  
それぞれに陰影が生まれ、  
色彩を帯び、確とした形郭を象り、  
驚くことにそれらは実像へと凝固したのである。



ズグズグ

新しい仲間を  
可愛がってやるがいいわ

たっぷり……とっぷり

一個の人間へと成った化生の者どもは  
飛鳥に襲い掛かり、あどけなきの残る顔立ち  
とは不釣り合いな程に異常発育した肢体を弄り始めた。



ジャーマニー ナーシサス  
邪魔忍 水仙

フェバ

はじめまして  
飛鳥

ジャーマニー  
私は邪魔忍の一人「水仙」よ

邪魔忍となる事がいかに  
素晴らしいか…んふう…

チュパ…あ…  
教えてあげるわ

や、やめて…っ



抵抗しても  
ムダよ

こんなじやらしく  
なってるのよ

水鬼姫様のお力で  
あなたの体は

あゝ…ツ

そ…  
そんなツ

ふふふ…感じるでしょ

乱暴に掴まれた乳房の芯から電流が迸り、たまらず  
悲鳴をあげる。  
しかし、それが痛苦の響きではなく甘い喜悦の色に  
滲んでいくことに飛鳥は愕然となった。  
年頃ならば鋭敏で繊細なふくらみであろうはずが、  
握り潰される程に揉まれて声を抑えきれない快楽を  
感じてしまう、そんな浅ましい肉体へと変えられて  
しまったのだ。

ムニイ



アキユ

もつとスケベなくノ一に  
馴けてあげる

はあん…っ

水鬼姫様に気に入って  
もらえるように

ダメ…えッ





じゃあ

この「水晶」も  
加えてもらえるかしら

オト...オ

私も  
手伝ってあげるわ

ああッそんな

ジャーマニー クリスタル  
邪魔忍 水晶



あんツ

いやらしいオツパイ  
こんなに大きく揺れて

お...おめ...

#エムツ

はあんつ

ホラ...どうなのツ

シエルル

淫虐な笑みを浮かべた二人の邪魔忍は息の合ったコンビネーションで飛鳥の無垢な瑞躯をいたぶり、望まずに植えつけられた女の急所を執拗に責めたてる。同性に二人掛りで蹂躪される、妖しくも淫惨なシヨウに飛鳥は為す術なく、羞恥に身を焦がしながら悶え続けた。

あふっ

んうっ

ギリ

だ…めエ  
採ま…ない…でッ

モッ  
モッ

ハア…あ



ああッそこ  
ダメ…えッ

ホラホラあ、もう  
グシヨグシヨよ飛鳥  
堪らないでしょ

あつあああッ  
そんなにされたらッ

もうッ  
もう…ッ

フフフ…

さあ飛鳥…水鬼姫様に  
忠誠を誓うのよッ

い、いやッ  
嫌よおッ

チュブッ

プシユ



生意気な子ねッ

うおおっ

いいわこのまま  
恥をかかせてあげるッ

ズボッ

ズボッ

あぐっ…!!

い、イヤあッ!

ホラッ  
イツちやいなさい!

あ…あああ  
あああ…ツ!!





つあああ…ツ

はあああ…ツ!

イキなさん…っ

イクのよ  
飛鳥…!!

ビクビク

あッあッあッ

つあああああ  
ああああ…ツ

ツツツツツ

ツ…は…あ

あ…ツ  
う…あ…

ああ…

ビクッ  
ビクッ

思い遣る事など微塵にも無い一方的な、  
そして、女同士だからこそ的確すぎる  
愛撫によつて無慈悲な絶頂に叩きつけら  
れた飛鳥。  
虚脱、痙攣の醜態を晒し、白痴のごとく  
緩んだ口腔からは言語の体をなさない  
不明瞭な惨めな呻きがよだれと共に  
漏れ出ていた。

フフ…いいイキっぷり  
だったわよ飛鳥…

ああ…ツ

こんなにステキな体に  
してもらった事

水鬼姫様に感謝するのよ

う…ああ…

も、もう…  
許して…ツ

何を言っているの  
まだまだこれからよ

この恥知らずに育った  
オツパイを徹底的に  
責めあげて

ギ  
ッ  
ッ  
ッ

私達無しでは  
いられない様に

目覚めさせて  
あげるツ!





戦慄の身震いと共に大きく揺れ弾む乳房に  
悪意の爪が深く喰い込む。

その直後、

双球を鷲掴みにする水晶の掌から

魔導忍術によって生み出された波動が放たれ、

膨乳を撃ち抜いた。

想像を絶する凄まじいばかりの振動が伝播し、

乳芯が粉碎され、乳肉全体が猛炎に

くるまれた様な激甚な衝撃に

飛鳥は絶叫した。

喰らいなさいッ！

ソニツククラッシュ  
超音圧殺ッ！！

ダクダク...

カツ

あああッ！

ツあああ  
あああ...ッ！！

ほらほら出力を  
上げるわよ！

どうまで耐えられ  
るかしらッ

ズ  
オ  
オ  
オ

ツうあああ  
や、灼けるツ！

…!!  
熱いッ

オツパイ  
が…あッ

おっぱいが灼け  
ちゃうううツ!!



あああ...

ああツ、も、  
もうダメえ

おかしくなるツ

ガクツ

おかしく  
なっちゃうう!

あああああ  
ああ...ツ!

ツあああああ  
あああつ...!!

ビクッ

ビクッ

乳房が破裂し意識ごと吹き飛びそうな  
凄まじい快樂の暴風から解放され、  
飛鳥は崩れ落ちた。  
荒い吐息を散らしながら、身を震わせ  
咽び泣く。  
だが、嗚咽に揺れる重い乳房の内側では  
淫業の埋め火が尚もじくじくと燻り続けており、  
汗がつかややかに滴る肌皮を容赦なく照り焦がすのであった。

思い知ったかしら

ヒュー

ガクッ  
ガク

ツあ…っ

っ…う  
ああ…ッ

だらしない顔ね  
フフッ

ビキィ

……!!

ビィン

見なさい…飛鳥

あなたのオツパイ、乳首がこんなに勃起したまま元に戻らなくなったわよ

…ああ…  
ひゅん…っ

ビキィ

すじいわ…こんなピンピンになって

いつでも発情しているスケベ乳になったのよ

フフ…まあ、このそそり勃った乳首を舐めなさい

え…っ

このピンピンに尖った乳首を自分で可愛がれって言ったのよツ

ああ…ツ  
そんな…

やるのよ、飛鳥

乳首が待ちきれないってヒクっついてるわ





ん...う...ッ

フフフキスッ

もっとうきを  
伸ばして...ー

んふ...っ

ああ...ッ

どれだけ恥ずかしい  
カラダになったか  
思い知るのよッ

レロオー

いい子ね…

フフ…気持ちいいでしょう

はあッハアア…ッ

んっ…っ

もっと激しく  
しゃぶるのよッ

自らの手で慰め肉悦を食う浅ましい痴行を強いられ、飛鳥は屈辱に顔を歪ませながらも屹立した己の乳首に舌を這わせる。恥ずかしい程に長く伸び硬直しきった先端はいまや完全に快楽器官へと成り果てており、耐え様の無い喜悅の電流と甘い痺れの余韻に痙攣が治まらない。その両脇から伸ばされた手が飛鳥の自機を援護する様に巧みに豊乳を揉みしだき、乳悦をさらなる高みへと衝き上げる。

ジュルッ

グ  
ッ  
ユ



ツはああツ

だ…  
ダメえツ

気持ちいい…ツ

そうよ…素直に  
欲望を受け入れなさい

ヌチャア

ズルル

オツパイ  
感じちゃうツ

フフフ…

ニヤニヤと邪魔忍の蔑む視線を浴び、  
尊厳を無残に踏みにじられているにも  
かわからず、次第に飛鳥の舌は積極的に  
動き出し、顎を突きだして両の乳頭を  
激しく舐りまわし、しゃぶりつく。  
溢れ出た涎で口蓋の周りはずべとべとに  
濡れそぼるがもはやそんな事はどうでも  
良くなっていた。



さあご褒美よ、こつちも可愛がつてあげる…!!

あ、ああそんな…

んうツ…

ふふふ…そうイキそうなのね

ああだめツもう、もう…!!



あんツ駄目え…ツ

キユツ

クキユク



イクときはちゃんと「イク」と言うのよ

あんツああ

だめツダメツ  
ああツああツ

ガクッ

さあ、「イク」と  
言いなさいツ飛鳥!

ガクッ

あ...あああ  
っイ、イ...くうツ

イツ...ちやう  
イツちやう...ツ



いいわねツ!

グヂュ

グボッ

っはああ  
い、イヤあ!



いつくううう  
うう…ツ!!

ザ  
ダッ

…あッああ  
ああ…!

ビ  
グッ

…ああ…ツ

ビ  
グッ

アハハハ  
イツたイツたわ

凄いいキつぶり  
恥ずかしい子ね…ツ

あッはああ  
ああああッ

ザ  
グッ  
ザク



あ、  
あああ……っ

わ……私……

どんどん  
おかしくなる……

ああ……

ア

ア



# 第参章

ジャーマニー

## 邪魔忍結集

同性に黷られる恥辱とそれを上回る肉悦に翻弄される  
飛鳥。

ふしだらな程に熟育した肉体は、己のものでありながら  
それ以上に女体を知り尽くしたくノ一どもの手管によって  
快楽の源泉を掘り起こされてしまい、飛鳥は敵の目の前で  
幾度も恥を晒してしまう。

だが、くノ一たちによる淫弄はまだ終わりを見せない…



何をへばっているの  
まだまだこれからよ

オオオ

本能寺一族の使命など  
どうでも良くなるまで

アクメ漬けに  
してあげるわ…



ほな

そろそろ…ウチらも  
混ぜてもらおうか

私は  
「水蓮」よ

ドオオオ

ウチは邪魔忍の  
リーダー「水蜜」や

ジャーマニー リリ  
邪魔忍 水蓮

これから

私達全員で  
可愛がってあげるわ

ジャーマニー ビーチ  
邪魔忍 水蜜

んふ...ツ

アムム...

ツぐう  
あんツあうツ

ああんツ

レロオ...ああ  
いいわ飛鳥

ネチャ

アంతタのキス  
とても美味しいわ



ああ…

はあふッ  
はあう…ッ

ググ…

もう…もう  
許して…っ

どや飛鳥…上の口も  
下の口も塞がれて

お…お願い

ザッ  
ピッ  
アッ

これからが本番やで  
ウチらの本気見せたる



あッ…ああだめエ  
おかしくなっっちゃうッ

またおかしく  
なっっちゃうッ

いつになればこの淫惨な悪夢から覚めるのか…  
ハイエナが群れで獲物を食べるごとく、己の身肉に  
いくつもの舌と指が這い、振じ込まれる。  
それを通して注がれる、くろ一達の魔性と淫技に  
よって、望む事の無い無理矢理な悦頂を立て続け  
に極めさせられ、飛鳥の精神はもはや屈服しよう  
としていた。

ひいッひい  
あッまた、またあ

グニイ

キユルル

ジュエ

そうよ何度でも  
イかせてあげるわ

この快樂以外なにも  
考えられなくなるまでね

あッあッ

っはああイクッ

イクッ  
イツちやううッ

ガ  
タ  
ッ

ガ  
ッ  
ガ  
ッ

そろッまた恥ずかしい  
イキ顔晒すんや…ッ

ツうあああッ  
イツくううッ  
うう…ッ!!

ブ  
ッ  
ア  
ア

あ…あ…

ハアツ

う…ああ…  
…ツ!

ビクッ  
ビクッ

あは…  
…あああ

ドロドロの汁  
こんな噴いて

ホントスケベな  
カラダになったわ

ふふ…また  
イツたわ

ヒッ

シユルル

ボムッ

さあ飛鳥

次は私にキスを頂戴：：フフ

キエパ

ん：：ツチュル：：

まだまだ終わらせないわよ

私達から離れられなく  
してあげる

又キヤア

激しい絶頂を浴びせられ余韻に朦朧とする飛鳥で  
あつたが、残忍な女獣たちは休む間を与えず、  
極彩の色責めでなぶり続け、  
飛鳥をマゾレスの底なし沼へと引き摺り込む。



ああう…ツ  
んつうう…!!

んうツ…

ああ…飛鳥

あなたのオツパイ最高よ

ツ

ツはああん

いやらしいオツパイ…!!

いつまでも揉んで  
いたいくらいだわ

カレツ

はあツあああ…ツ

ニユウウ





はん  
あふう  
…  
ツ…

ああん…  
…  
ツ

ああ…  
…  
だつて

はしたないよがり声ね

チュルル

オツパイ揉まれるのが

すつかり  
気に入ったようね

ムニイ

毛ニイ

いやああ…  
…  
ツ



ああんっ

そこは…ツ!

い、いやあっ

ヌヌ…

あんツ  
あはあツ

グッ

どう、飛鳥  
たまらないでしょう

ダメ…えツ

穴という穴全てを同時に  
愛されるなんて味わったこと  
ないでしょう…ツ

んぐっジュルル…

ジュブ…はああ飛鳥ア  
もつとや、もつとアンタの  
熱い蜜を飲ませてエヤ

ひいっ

ああだめえツ

フキユ

グキユウ

グブグブ

そんなに深く  
入れないでツ

あっはあ

あっあああツ  
あんっ、はあんツ



っおお…ツ

イイツ  
ああんっ…!

グエリッ

ガボッ

はああ  
……ツ!

ゴボッ

甘い唾液をヌラつかせながら、軟らかい舌がその先を尖らせ、飛鳥の牝穴を深く穿つ。蛞蝓のごとく不気味に伸び縮みする濡舌は鋭敏な内壁をこそぎ、襞を舐り、湧き出る淫汁を啜り尽くす。

女の急所すべてが塞がれ、己の肉体が完全に支配された被虐に飛鳥の無垢な精神がドロリと濁っていく。



っもつと  
もつとおおツ



ああ…

いや…あ  
こ…こんな…

許し…てエ

フフフ…駄目よ飛鳥

あなたのカラダは  
私達のモノなのよ

全身の隅々に至るまで…  
知らないトコなど無いように

全てを曝け出して  
もらおうわ…ツ

ああああ…

こんなに  
トロトロになって…

興奮してるのね飛鳥  
いやらしい…

ああ…  
ひどい…

あなた達がこんなカラダに  
したくせに…ッ

女として憤み秘すべき陰部を剥き出しに晒され、消え  
入りたい程の屈辱を受けながら、異様な開放感が  
飛鳥を覆う。

浅ましい絶頂の姿ももう幾度も暴かれてしまい、己の  
悉くを晒した陵辱者に対し、縋りつきたくなるような  
隷従の芽が根ざし始めるのであった。

つああ…な、  
なにをするの

ガオオ

そ、そんな…  
怖い…イ

ふふツアンタの穴を  
もつともつとスケベに  
改造したる…ツ

嘘は駄目よ  
期待してゐるくせに

ああ…  
イヤああ

イグ

イグ



ホッラ、飛鳥の後ろの穴に  
ズブズブ入っていくで

あッ…が…あ  
う…嘘…お

どんな気分や…ホンマは  
出すだけの穴が

こんなブツといモン  
も呑み込める…

変態ケツマ●コに  
変わっていくのは…？

あああ…ツ

さあ…飛鳥  
狂わせたるでえ！

ザッ

グググ

ゴツウツ

覚悟しィや！

んおお…っ

い、いやあッ  
おおおお…っ

んぎィっ  
んぐオオオオオ！

ボコ…オ

ビュブッ

ズゴッ

握り拳を優に超える極太の棍棒が、少女の排泄の穴弁を抉りぬぎ、奥底の臓物に叩きつけられる。汗滴の滲んだ殿肉は無残に押し広げられ、昨日までは淑やかに佇んでいた陰阜は押し潰されて、狂乱の悲鳴と共に愛液が撒き散らされる。

…オオオツ!!  
おっおしりがツ

おかしく  
おかしくなる  
あつぐううツ  
んぐおおお…ツ!!

凄いわ…こんな  
広がって

ガブッ  
ゴブウ

お腹の中が…っ  
ドスンドスン  
言ってるのオ!

オオ…オオ

ああ…いく

ああ、嘘…お  
イツちゃうう

だめ…え  
イ…っちゃうツ

さあまたイツちゃうわねえ

フフっそちゃう…この体はもう  
我慢なんかできへん…!

ブルブル  
お、お尻でっ  
お尻でエ…ツ

イツちゃうツ  
イツちゃうツ  
うう…ツ!!

グググ

グググ



イクツイクツ  
イクツイクツ  
イクツイクツ!!

おおお...ツ

おっおっおっおっ  
おっおっおっおっ  
おっおっおっおっ...!

気を  
やるんやツ!!

アツアツ

イクツイクツ  
イクツイクツ  
イクツイクツ

ビクビク  
ビクビク  
ビクビク

...ツ、が...ツ  
ああ...あツ

ガギガ

お……お  
お……お  
お……お

や、やめ……て

イツた……もう  
イツた、から……ア

フフ……ツ

何を言うとなんのや  
このスケベなカラダが

ボクッ

ボクッ

たった一回だけで満足  
できる訳あらへんやろ！

ギョッ

ああ……  
そんな……ツ

あはあッいや  
あッまた、またあ

はああ  
……ッ!

ツうあああ!  
く、狂ううッ  
狂っちゃうッ!!

グ  
パッ  
グ  
パッ

そうや  
狂うんや

イッて  
イッて

イキ狂ってそのまま  
往生しちゃうッ!

ウあああッ

あああッ!!







おっ  
おっ  
おっ

おっ  
おっ  
おっ

ビクッ  
ビクッ  
ビクッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

臓物を深く貫いた鉄杭をきつく締め上げ、ケダモノの断末魔をあげながら飛鳥は肛悦の頂点を突き抜けた。脳天を真っ赤に灼かれ、押さえ込む女たちを振り飛ばす勢いで尻腰が暴れまわり、恥肉が床に溜まった淫汁に何度も打ちつけられ、濁った飛沫が激しく飛び散る。やがて、激震は断続な痙攣へと収まり、肺腑から絞りきった長い呻きを残し、飛鳥は力尽きた。

# 第肆章

## — 水鬼姫 —

獲物の肉を啄み食い荒らす死鳥の群れに蹂躪されたかのごとく、哀れな少女の伏すべき秘所は露に剥かれ、全ての肉穴が玩弄された。

泣訴も哀願も許されず、偏狂した情欲で弄ばれ、ただただ無慈悲な絶頂に打ちのめされる。

昏い快樂に侵され虚ろとなった飛鳥の自我へ、魔導の蠱惑の囁きが染み込んでいく—



さあ水鬼姫様

これで

お膳立ては  
整ったでえ…

もうこの子のカラダも  
頭ン中もトロトロになつとる

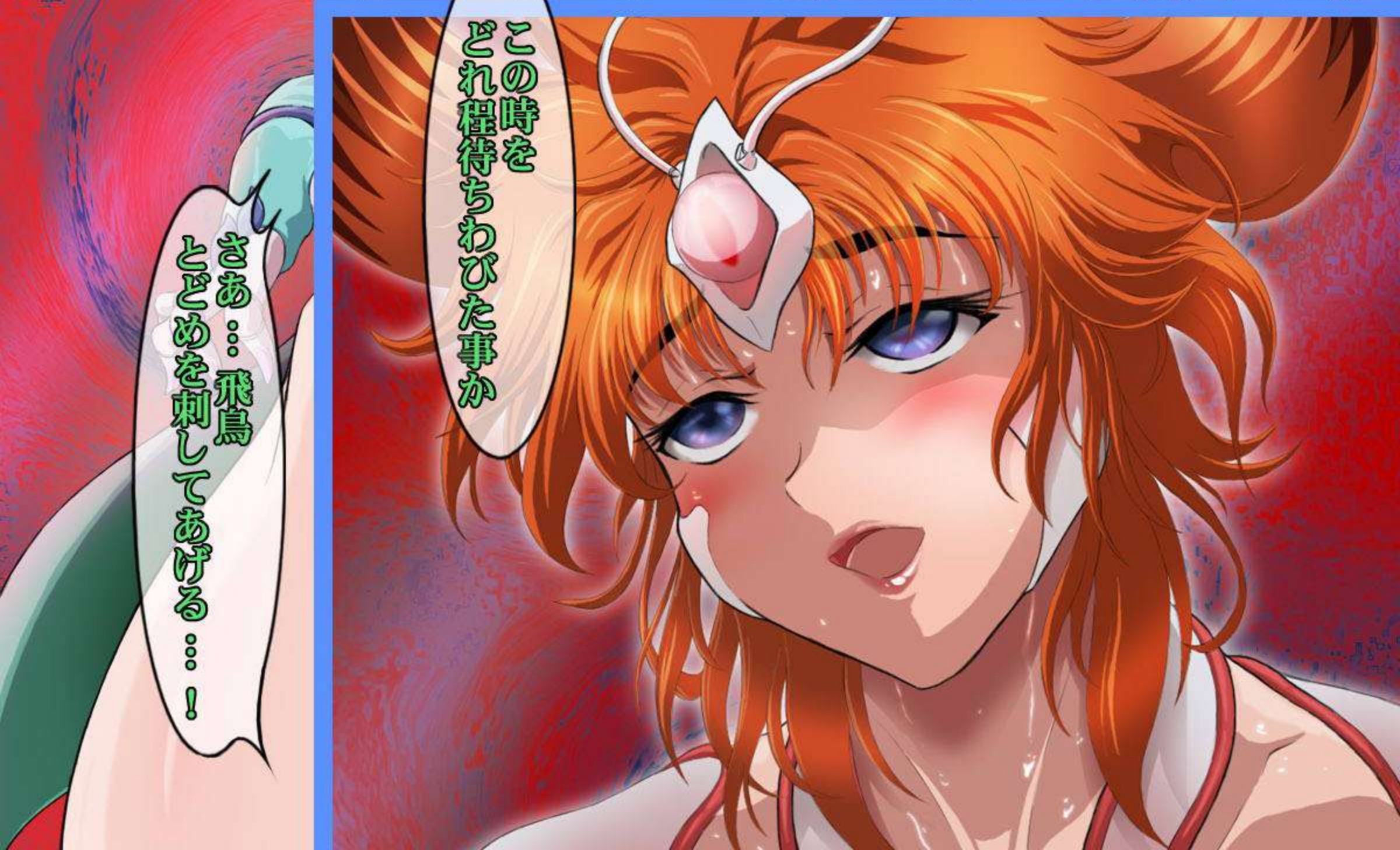


あとは仕上げだけや



フフ…ツ

よくやっ  
たわ邪魔忍ども  
ジャーマニー



この時を  
どれ程待ちわびた事か

さあ…飛鳥  
とどめを刺してあげる…!!



又キユ

ん…チユ…

さあ私の目を見なさい  
飛鳥…

心を空っぽにして…

私の言葉だけが  
おまえの絶対なのよ…

う、あ…っ





おまえはもう  
私からは逃れられない

友も家族も  
愛する者たちも…

全てを投げ捨て  
私だけを信奉するしもべ…

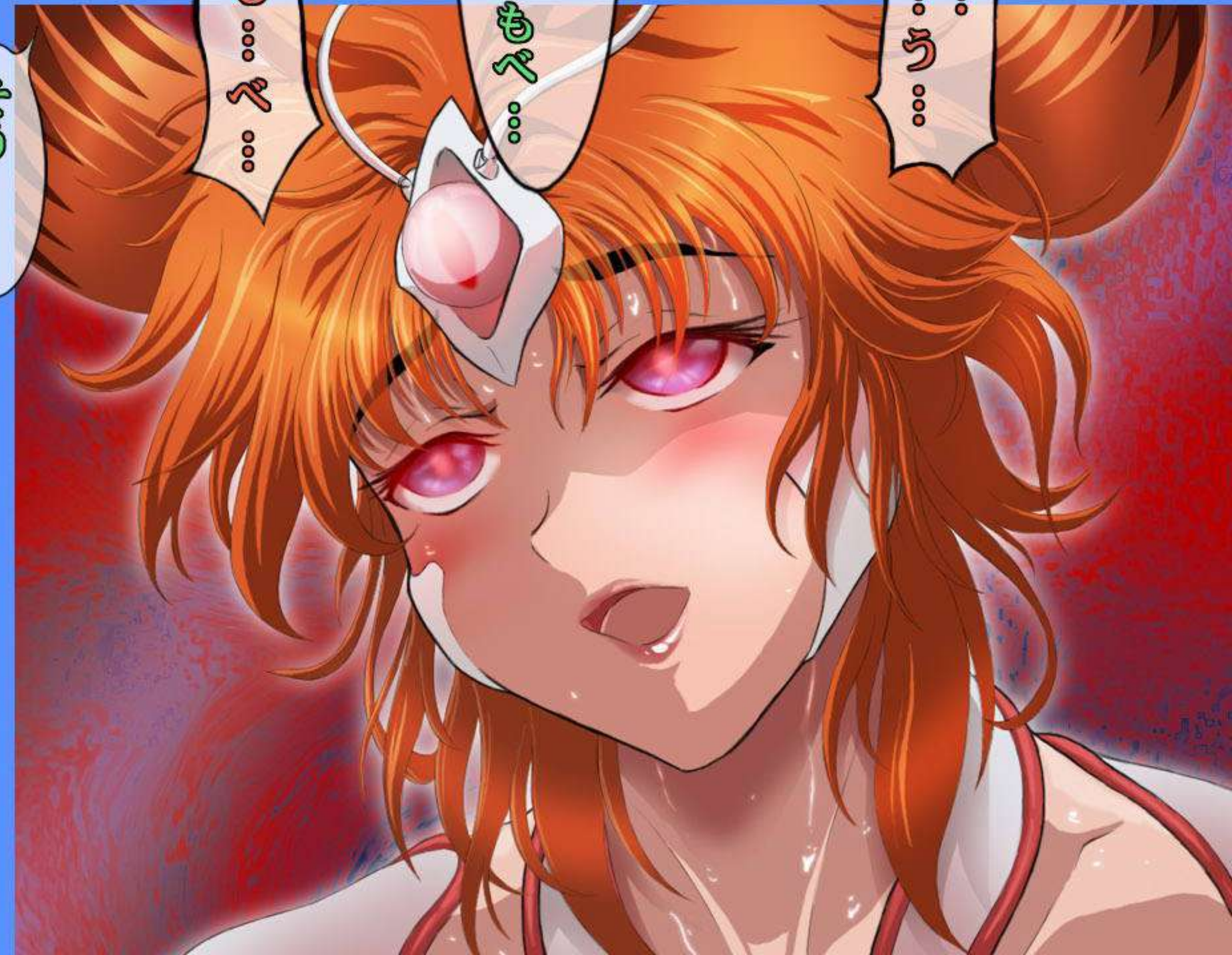
ボクッア

あ…  
う…う…

しも…ス…

そう…

私に魂を捧げる忠実な  
しもべになるのよ



排泄器官で悦びを貪る、あまりにも浅ましく

恥知らずな畜生以下の所業を遂げた飛鳥。

男女の睦みを知らず破瓜も果たされぬその身に

昏く歪にねじ曲げられた快樂嗜好が深く刻み込まれていた。

気が狂いそうな肉悦で幾度も果て、ピンク色の靄に  
包まれた思考に、墮淫を唆す魔性の囁きが染み込んでいく。

わ、たし…は

しも…べ…

オオオオ



思い出すのよ飛鳥  
あのかげがえのない悦びを…

これまでに味わった事の  
無かった尋常ならざる快樂…

ドロドロに爛れ…融けて  
しまいそうな肌の熱さ

女同士で重ね合うまとわりつくような濡れ肌、  
背徳に昂ぶる肉と肉の間を伝い滴る汗からたちこめる  
蒸れた匂いが鮮明に蘇り、飛鳥の脳はひととき痺れた。

あ、ああ…

グググ…

ツはああ…

いくつもの舌と指が撫で這わされた感触を思い出し、  
肌が打ち震え、ふたたび昂ぶりに温もっていく。  
痴態を曝け出し粘膜と体液を交わした陵辱者に対して  
雁字搦めに縛られた逃れられない繋がりを覚えてしまう。



ほら…カラダが求めているわ…

もっと感じたいでしょう…

もっと気持ち良くなりたい…

もっと…

感じ…たい

ググン

…うう  
あ…あ

もつ…と、気持ち  
…よく…はああ…つ

ググン

何度も何度もイきたい…

あああッ

い、いきッ  
イきたい…ッ

イキ…たい…

ドグッ!



そうよ、それがお前の  
本性なのよ……ならばッ

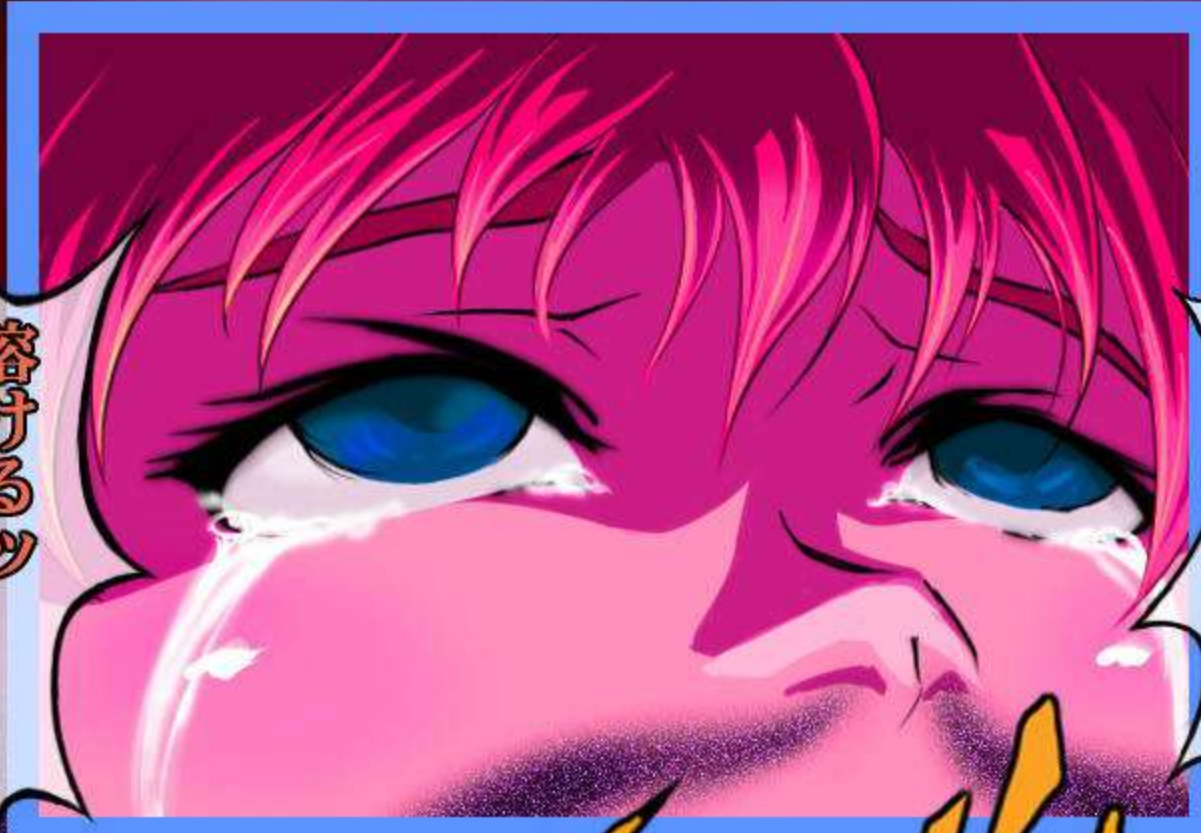
その享楽に身を浸し  
たくば我を……魔導を  
受け入れるのよ……ッ

魂が魔導の闇に染まれば  
つまらぬ理性など  
どうでもよくなるわ

さあッ欲望を  
解き放つのよ！

ズ  
アアア





溶けるツ  
とけちゃうツ

はああ  
は、入ってくる  
おオオオ...っ  
あ...頭、アタマがツ

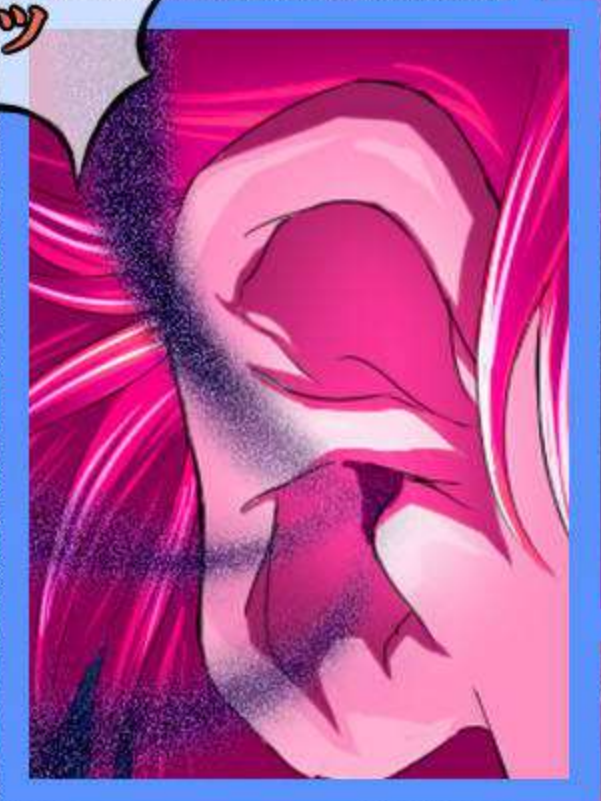


シエゴオオオッ



はああ  
.....ツ!

ツああツ  
あはああ...ツ





フフ…ツ

…あああ



さあ飛鳥……これでもうお前は  
人間の摂理などに縛られない……

水鬼姫の邪念に侵され、魔導の闇に酸蝕された飛鳥には  
もはや本能寺一族である己の立場もその使命さえも  
何の意義を見出せず、何の価値も無くなっていた。  
己の肌に残る鮮烈な快感だけが記憶であり、求める全て  
であった。

欲望に忠実な一匹の  
獣になつたのよ

あはああ……っ

はああ  
……ツッ!

熱い……いつ  
か……体があ  
熱い……い

ズク  
ゴクン

チュルル

ああああ……

体の奥底から膨れ上がる破滅的な欲情に、  
飛鳥の目から理性の光が消え去る。  
見栄も外間も顧みることなく、ただ、肉体が命じるまま  
に浅ましい肉欲に忠実な牝へと墮した瞬間であった。





あああ…っ

欲しい…ッ

フフ…ッ

そうよ…それでいいのよ

もう何も考えなくていいの…



ただひたすらに  
水鬼姫様を求めなさい…

あ…あ…

どうしたの飛鳥…  
さあ…？

う…あ…、  
水…鬼姫…様…

そうよツ

さあ、水鬼姫様をよく  
ご覧になりなさい…！





ああ…っ

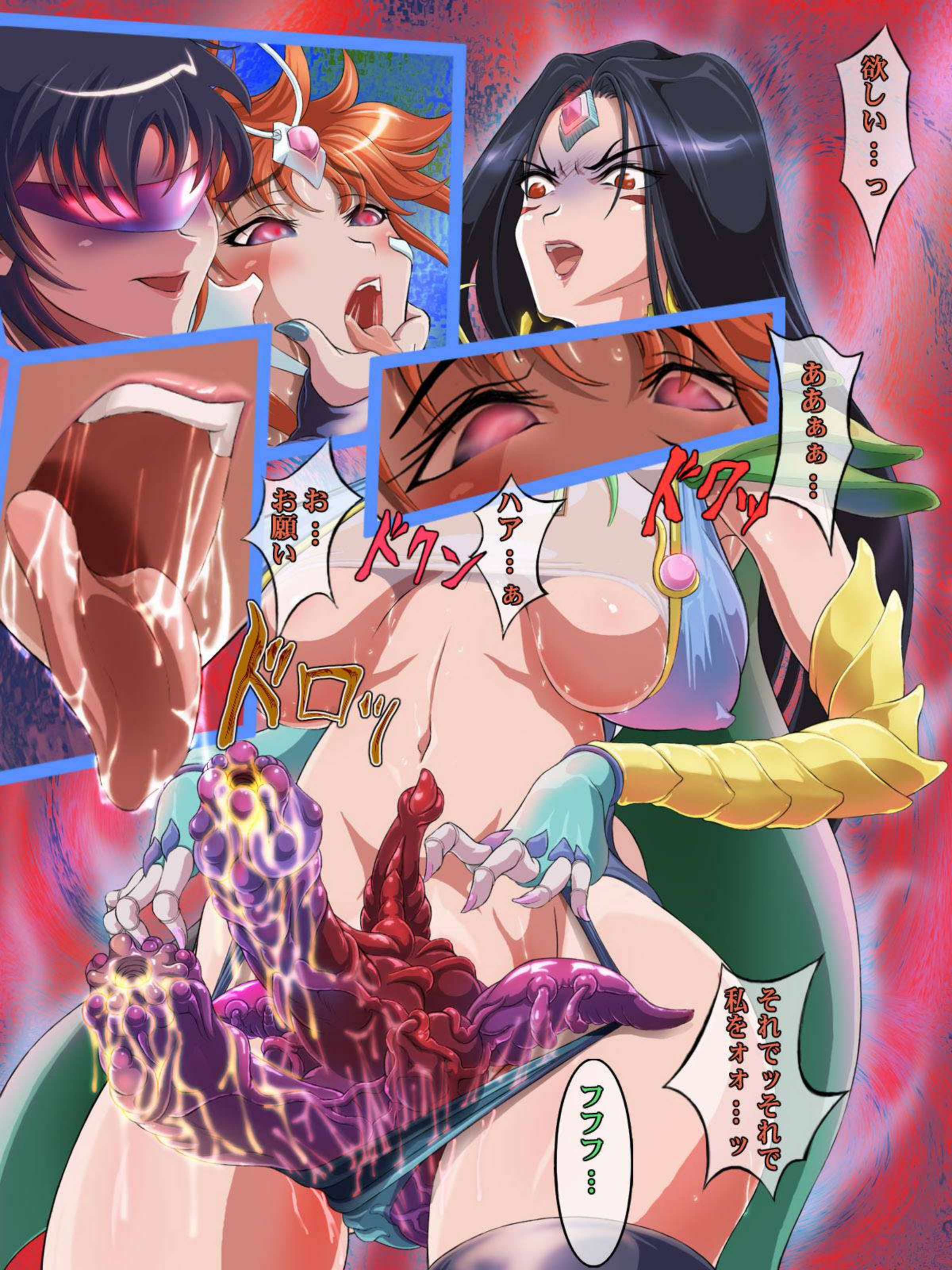
フフフ…飛鳥  
アレがなにか判る…？

あのブツといモノであなたは  
水鬼姫様と繋がるの

あなたが  
欲しかったモノよ…！

っはああ…っ  
♥





欲しい…っ

ああああ…

グワッ

ハア…あ

グクン

お…  
お願い

グロッ

それでツそれで  
私をオオ…ツ

フフフ…



ああ……っ

す……ッ  
スゴイ……♡

こんな……こんな  
大きいの……ッ

ブヂュ

ブイッ

気に入ってもらえた  
ようね…飛鳥

はあ…あ

す、ステキ…イ

水鬼姫様…

ホムムム

どうか…どうか  
これを…ツ♥

耐え難い肉悦の飢餓にあえぐ飛鳥。

すがりつき仰ぎ見る眼差しに浮かぶ澱んだ潤み。

欲望に支配され、淫蕩にふやけた精神は、

討ち果たすべき仇の足元に傅きその怨名を敬する己れに

何も抵抗を覚えず、何の躊躇いもなかった。

フフフ、まったく  
卑しい娘ね…

そんなにコレが  
欲しいの…？

ああ…ツ  
お願い…イ

ニ  
チ  
ャ  
ア

お願いします  
水鬼姫様…ツ！

この世のモノとも思えぬおぞましい異貌の肉根へ、  
飛鳥は抑えきれない興奮に振るわせた手を差し添える。  
火傷しそうに熱い昂ぶりを掌に感じた瞬間、  
肉欲を渴する牝の本能が理解する。  
これが、これから水鬼姫と深くつながり、自分を天上の歓喜の世界に  
導いてくれる肉の鎖なのだーと。

はあ…  
熱い…イ

ヌキヤア

脈打ってる…ウ

すいんっ

こんなだ…ピクンピクン  
つてえ…ツ♥

ああ……っ

まだ大きく、  
大っきくなる……ッ

キュッ

グジュルル

ドクンドクンと力強い脈動に膨れ上がる肉竿に対し、どうふるまえば  
良いか、などという迷いは微塵も見受けられなかった。

誰に教えられた知識でもない、己の中に目覚めた隷従の精神が  
命ずるままに指を、舌を這わせ奉仕を続ける。

その脳裏には、見た事の無いはずの「射精」の瞬間が浮かんでおり、  
情欲に満ち足りた肉根から迸り撒き散らされる精汁の一筋一滴まで  
鮮明に描かれていた。

オオオ…ツ  
いいわ飛鳥ツ

もつとツ  
もつと強くよツ!

ジュボ

はああつ  
出るツ出るわよ!

ジュボツ

ああああ…

出してツ  
いっばい…ツ  
いっばいツ  
出してエ!





はああ  
ああ…ツ

いくわツ  
イクウウウウ  
……ツ!!

オオオツ…!

…オオオツ!!

グググ!

ボッ





はああ  
……ッ!

ハア……あ

ビュッ

ごこんだ……っ

ああ……ッ  
素敵……イ……♥

ズビュルル

あ……ああ……



ばあ  
あ  
あ  
ッ！

ハア……あ

こ  
こ  
んな  
だ……っ

あ  
あ  
……  
ッ  
素  
敵  
……  
イ  
……

あ……あ  
あ……

う  
う  
...

お、  
オレは一体...



...  
う  
う  
...



...はっ  
飛鳥...ツ

飛鳥あ...ツ!



なっ  
...  
!?



…はああ…  
ンチュ…レロお…

ふはア♥

ジュルル…っ

あ…

飛鳥…っ



レロ…ッ

んうッ  
んぶうう…ッ

はああおいしいッ

それは己の目を疑わずにはいられない光景であった。  
本能寺一族の希望であり、かけがえのない大切な家族  
でもある愛する妹が、憎むべき魔導の者に傅き、  
あるうことかその股間より奇怪に生え出で、おぞましく  
そそり立った醜悪な一物を獣の様に貪り啜っていたの  
である。

チェル  
チェバ

一体なにがおきたのか―  
眼前に繰り広げられる妹の狂態が現実のモノとは  
受け入れられず、大地は立ち尽くすしかなかった。



はああ…っ

飲ませてエ…っ

ズルル

またア汁が  
出て来た…あ♥

ふふふ…そう…  
そんなに欲しいの…？



飛鳥ツ  
やめろっ！

目を  
覚ませツ！

何を  
やってるんだツ







フフっ無駄なコトを…  
もはや飛鳥は私の虜…

飛鳥…ッ

私だけを見、私の声しか  
聞こえない従順な人形よ



何か遠くでざわめきがする。

肉親の血を吐きそうな叫びも、頭の中でうなり続ける耳鳴りに掻き消され、今の飛鳥にとっては虫の羽音程にも響かなかった。

虚ろな瞳には、水鬼姫から放たれる妖気が揺らめくように映え、どろりと濺んだ虹彩が、突き出された不気味な肉塊に

吸い付けられたまま微動もしない。もう他の何物も視界には入らなかつた。

ボーン

いいわよ飛鳥もつと深くしゃぶりなさいッ

その浅ましい姿を見せ付けるのよ……っ！

はい……♡  
水鬼姫様





そらッ

オオオ...

んぐ...

ジュブッ  
ブブッ

ゴボッ

ゴボッ

一滴残らず  
受止めなさい!!

いッイイわ  
また出る出るわよっ!



オオツ  
イクラツ

イツクウツ  
はあああ...

あああ  
.....  
ツ!

つああ...!

ググウツ

ググウツ

ああ…いい子ね飛鳥…

あなたのおしゃぶり  
素敵だったわよ

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ  
ゴッ

おかげで…こんな  
プチまけてしまったわ…

フフ…ツ





んぐ…っ

あ、飛鳥…

ジュブブツ

そ…  
そんな…

ズルルツ

ゴクン  
ゴブツ

あ、  
あああ……っ

ダメ……え

まだ……まだ  
足りない……イ

か…体の

疼きが止まら  
ないの…ツ

ブル  
ブル

もっ…

もっと欲しいって  
言ってるのオツ!

グ  
グ



ああああ…

もう…もう♥  
我慢できない…イ

す、水鬼姫様  
お願いしますッ

それを…ッ  
こ、ココロイ…ッ



フフ…ツ

駄目よ、飛鳥…  
ちやんと言わなきや

「ココ」…？…違いでしょ  
此処はなんて言うの…？

ハアツ

ああ…  
そんな…

チエパ



さあ…命令よ飛鳥

ハツキリと大きい声で  
口にするのよツ

何処に  
欲しいの…っ!

オト…オ

ああ…



…すっ

水鬼姫様ツ

水鬼姫様のツ  
ブツとい  
モノを…ツ!!

ツ  
ツ  
ツ

ア  
ア  
ア

わ、私の…

お…おまん…っ

オマ●コ…っ

ア  
ア  
ア

ツ  
ツ  
ツ



あああッ!

オマ●コツ

オマ●コにイ  
イイ……!!

ガ  
グ  
グ

ガ  
グ  
グ

ブツと  
ポッ♡

あああ  
ああ…ツ!!♡

プチこんで  
くださいいッ!!

ガ  
ニ  
イ



滾りたつた淫欲の熱に浮かされ、

魔導に唆されるままに耳を塞ぎたくなくなる様な汚らわしい

痴語を喚き散らした飛鳥が激しく身震いする。

異様な興奮と開放感が全身を襲い、この肉体を開いて

奥底の臓物までも曝け出してしまいたい衝動を

抑えきれない。

ハア…あ

お…お願い  
しますっ

は…っ  
早くッ

こ、ココ…っ  
お…オマ●コ…お

オマ●コに  
入れてえエエ  
…ッ!!❤

ギ  
ッ  
ッ  
ッ

フフ、そう…  
それでいいのよ飛鳥

ニフニフ  
ニフニフ

チクタク  
チクタク

アア

もう何も躊躇うこと  
なんて無い…

人間の体裁も  
おまえには必要ない…





腹の奥まで抉り  
抜いて…ツ

さあ…お望みのモノ  
をブチこんであげるわ

ああ…

熱い…イ♥

メチヤクチャヤに  
かきまぜてあげる  
…っ!!

ジワァ

ガキェウ





ホラっしっかり  
見ておくのよ

最愛の妹が処女を  
散らされる瞬間をねッ

ああああッ  
飛鳥ッ飛鳥ああ

やめろッ  
やめてくれエエッ

ギギギ



あはあッああ  
ああ……!!

飛鳥あ……ッ

ズッ



飛鳥…ツ

これであなたと私は  
一つに繋がったわ

さあ…深く  
愛し合いましょ…!!

グググ…

はああ  
……ツ!

つああ…





はああつ  
んふうう…!!

グボツ

あひ…イ

グボオ

いい…っ  
あああイイっ!!



狭隘な処女窟に燃え滾る鉄塊が突き抜ける。  
容赦の無い律動で柔らかな腠肉は蹂躪され、引き裂かれ  
るようにこじ開けられていく。  
だが、暴虐とも言うべき惨状にも拘らず、飛鳥の面貌は  
水鬼姫との肉の繋がりに感極まった法悦の色で満ちて  
いた。  
腰を打ち付けられる度、そのだらしなく緩んだ口穴から  
は、歓喜をこらえきれない呻き声がよだれとともに  
吐き出された。

オオオオ……っ

フフフツ  
スケベ子ねツ  
もうこんな  
よがってるわ……!!

ズグッ

あああ……  
ごめんなさいイ

オマ●コがツ

ヂュグッ

オマ●コがああ  
挟られてええツ♥





ああッ

ズザッ

も、もうダメ…ッ

もう…ッ  
いきぞ…オ

ああイ…クウ

いいわ…ッ  
ならタツプリ  
曲してあげるわ

ボコ…オ

とびつきりドロドロの  
濃いザーメンをね…!!

んおお…っ

ギシ  
ギシッ

あああ…ツ  
いくウイツくら  
イツちやう…ツ

イツちやう

ガッ

ガッ

オオオほらッ  
出るッ射精るわよ

だ、<sup>だ</sup>射精して  
射精して下さいイ

水鬼姫様のツ♥  
熱いザーメンッ









あああ...♥

すごい  
いっばいイ...

あ、はあ...ア  
出て...る...ウ♥

なか...<sup>ナカ</sup>腔中...で  
ドクドクって...え

ビュルッ

ビュルッ

ビクッ  
ビクッ





とても良かったわよ  
飛鳥…

キエバ

あは…あ

水鬼姫様…ア♥

又キアア

ホムムム



すごい量…あんなに溢れるなんて…フフ

うわああ…ツ

サ  
ダツ

飛鳥…っ

飛鳥ア

ギギギ



お、おおおツ  
お尻があ…ツ

グブグブ

んぎいッ  
ああッあがああ♡

まだまだ  
これからよ

さあこっちの穴にも  
ご馳走してあげるわ

三千三干イ

あ……ぐツ

フフっご覧なさい飛鳥  
あなたの後ろの穴……

ザグザグ

ギチ

わたしのモノをすっかり  
呑み込んでしまったわ

こんな太つといち●ボが  
まるまる入るなんて

ああ……  
だつてエ



もう完ペキに第二の  
オマ●コになった様ね

あはあは

言わないでエ

フフフ  
興奮してるの…？

愛液がこんなドロドロに  
噴き出してるじゃない

ジワァ

ああイヤ…あ

いやらしい娘…

もう普通のセックス  
では満足できないわね

ハア

ハア





いいわ…もっと  
可愛がつてあげる

はああ…  
水鬼姫様っ

前も後ろも  
この手●ポで  
塞いであげるわ

オ…ツ  
オオオっ♥

は、入ってツ  
入ってくるううう!

ズググ

ズグズグ





ズツツ

んんん

う…  
ウツ…ツ

ああツ…お尻と  
オマ●コ…お♡

ああああツ両方  
両方とも入ってるウ

×キ  
×キ

おつ奥まで

はいつてる  
のオオおツ♡

う…ッ  
んぎ…い…

ウフフフツ  
覚悟しなさい飛鳥

このパンパンに  
膨れ上がった腹の中を…

ポコッ

ザリユ

ザリユ

お腹が…ッ  
破裂す…るウ♥

お…大きい



グチャグチャにかき混ぜてあげるわッ

おッオオオオ  
おお……!!  
♡

ジュボッ

んぐっ  
んぎいイ

お腹が、お腹が  
アアア……ッ!

ズザッ

突き破られる  
ウウ……ッ!!  
♡

ツうああ……ッ





おおツ♥  
オオウツ

だ、だめエエツ  
んおおお…ツ

グボオツ

く、  
狂ウウツ

グツ

狂ウウツ

フフ…ツ

こんなによがって  
恥ずかしくないの…ツ

ああッだつてだつてエエ  
こんなのたまんない…ツ  
♥

グズツ  
グズツ

こんな前も後ろも  
プチ込まれたらア♥

誰だつておかしく  
なっちゃうウウウ…ツ

はああ♥  
……ツ!

ねえ、前と後ろ…  
どっちが感じるの…?

ああ  
そんな…

ガキヤツ

又キヤア

イヤああ…

わかんないツ

オマ●コと  
ケツマ●コ  
どっちがイイかって  
聞いているのよツ

そんなのツ♥  
わからないイイ



ツうあああツ  
いいツイいい  
気持ちいいツ!!

オオオ♥  
オマ●コもツ  
ケツマ●コもオ  
どつちもオオオツ

さあトドメよ  
飛鳥…!

カ  
ツ

はああツもう  
もうツダメえ♥

ガ  
ク

受け止めなさい  
この滾る私の愛をツ

ツイきそオツ  
イクツイくうら  
……ツ♥

ガ  
ク  
ツ







いくつ  
イクウツ♥

いくイクウツ  
あああーツツ♥

ビグッ  
ビグッ

ツうああああ  
イクウツウツ!!

ビグッ  
ビグッ

ボゾ

ボゾボゾ



はああ  
……ツ!

……あツああ……  
……はああ……ア♥……

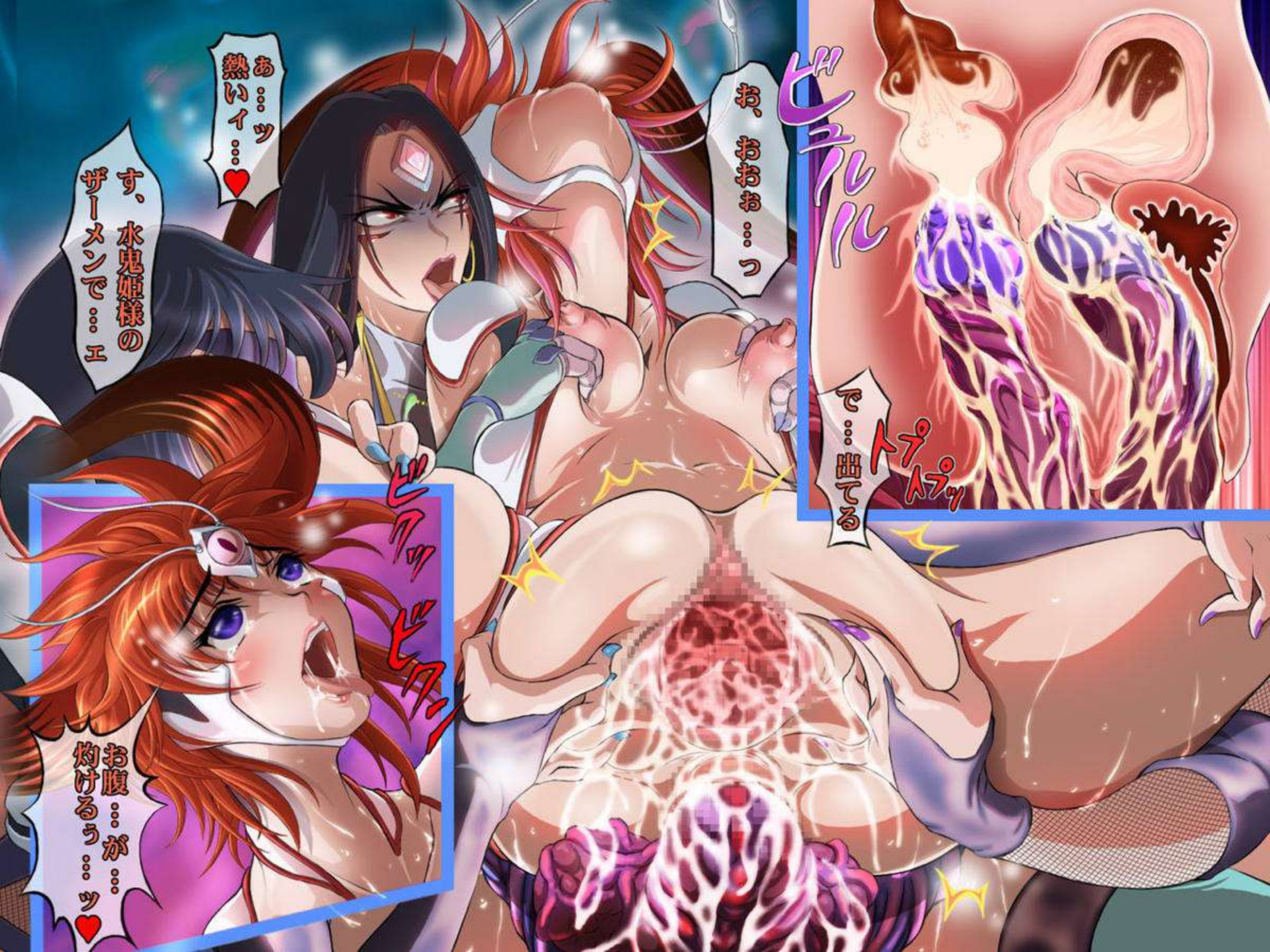
ああアアアア  
……ツ!

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ



あ…ツ  
熱いイ…♥

お、おおお…ツ

ビュルル

ド…出てる

トッ  
トッ

す、水鬼姫様の  
ザーメンで…エ

ビュルル  
ビュルル

お腹…が…  
灼けるう…ツ♥



はああ...

ザーメンっ  
熱いザーメン

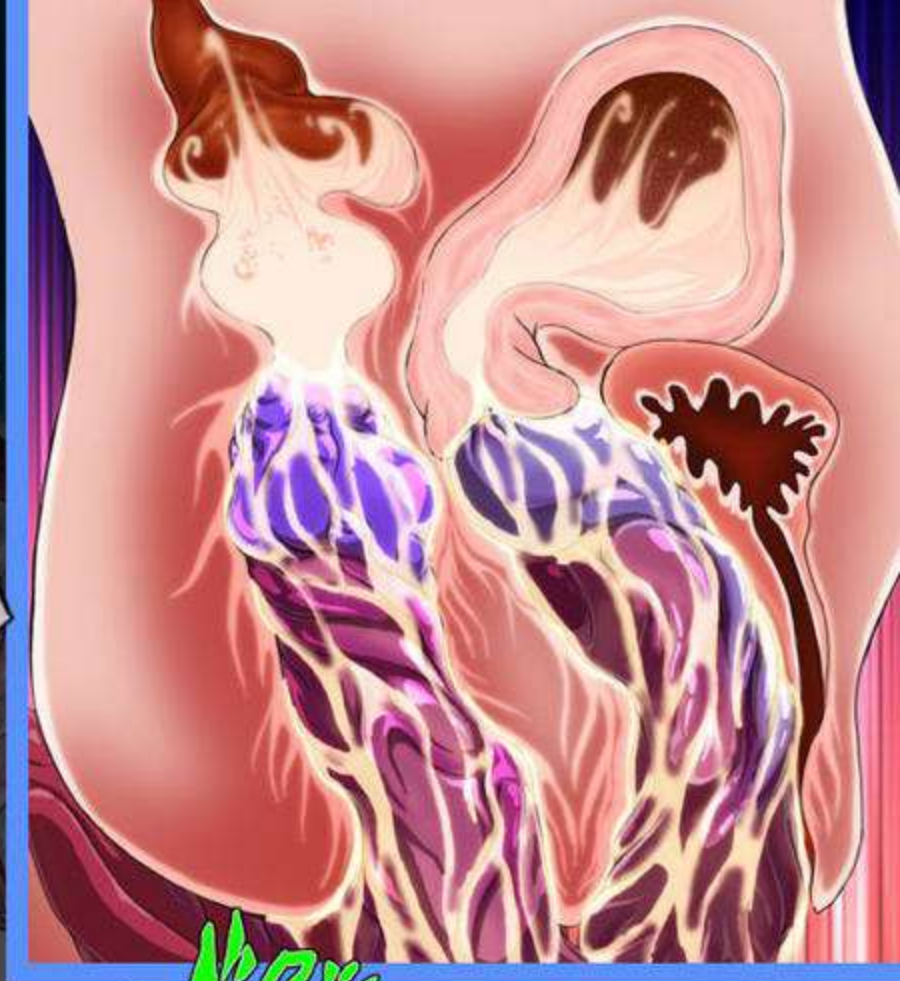
ゴボオ

どんどん  
飲んでるの...オ

ああ...♥  
飲み込んでるう

おマ●コ...お  
お尻もお...ツ♥

ア  
1/4



ククッ  
ククッ  
ククッ

あああ……っ

ああ……

痴れ顔の下で晒された無残な二穴挿しの跡図は、  
まるで見るもおぞましい魔界の瘤蛇が、  
牝窟と化した飛鳥の前後の肉孔に殺到し、  
その奥深くへと夥しい淫邪の毒を吐き  
出したかのようであった。

破滅へと狂わせる猛毒に侵された子宮が  
膨れ上がり、異様な収縮が始まる。  
ドクンドクンと込み上げてくる鼓動に、  
飛鳥は再び、情欲の波に襲われるのを感じた。



……



# 第五章

## ― 変幻戦忍アスカ ―

魔に堕ち、人ならざる悦びに支配されていく飛鳥。  
その肉体の奥底に芽吹いた淫欲の炎が、渦を巻いて立ち  
昇り、臓物を灼き焦がし、飛鳥を狂乱にのたうたせる。  
爛れた肌、肉が飢えを叫び、ただひたすらに魔導の邪精を  
求めて恥知らずに嬌声を張り上げる。

本能寺飛鳥が今、生まれ変わろうとしていた。

あんツ

イイ……っ

ギン  
ギン  
ギン

ああツ  
もつとオ

水鬼姫様  
ああツ

すツ水鬼姫様  
ああ……!!



あんツ

イイ……っ

ギ  
ギ  
シ  
シ  
ッ

ああツ  
もつとオ

水鬼姫様  
ああツ

すツ水鬼姫様  
ああ……!!



ククっそうよもつと  
よがりなさいッ

おまえのスケベな本性  
を曝け出すのよ…ッ

はあんっ

だめエツ

ああッいやああ  
また、ダメになるう

アハハつまつたく  
呆れた娘ねッ

あれだけイッたのに  
まだ感じているの…ッ?

はああ  
……ッ!

グッ  
グッ

ブルンッ



ああ…  
だって

大きいのがつ  
こんな大きい  
のが…ツ!!

お腹の中で  
暴れてるのおお  
……ツ!!

グッツ





ああああ...

い、いつぱい  
なのオ...ツ

グググ

オ●ンコもツ  
お尻にもおツ♥

グググ

いつぱああい♥  
ブチ込まれてるのオ



うああ…  
お願いッ

お願いします  
水鬼姫様あ…ッ

ガキユ

また…またあッ  
イツちやいますッ

ドシユ

どうかとどめを  
ください…ッ!



おおお…っ

欲しいイ♥  
欲しいんですッ

ズゴッ

ズボッ

ああっイクラ  
イキます…っ

水鬼姫様の  
ザーメンがあ

ア  
ハ  
ア  
ア  
ア  
!

いいわッ

いきなさい  
飛鳥ッ

おまえの欲しかつたモノ  
ブチ撒けてあげるわ…!!

ほらあッ

イクのよッ  
飛鳥アア...!

フ  
ク  
ア  
ッ

あはあ  
...ッ!

ヒ  
イ  
イ  
イ  
ッ

イクううッ

イククうう  
うううッ! ♡

イクッ...!

グ  
グ  
ウ  
ッ

グ  
ビ  
ュ





はあ……  
あ……  
あ……  
あ……

つあぁ……  
❤️

ザクザク  
ザクザク

……  
つ……  
あぁ  
❤️

フフフフ……

ボムム

ズブズブ

ビュル



さあ飛鳥…肉体も  
魂も深く結ばれた…

我等魔導の同胞よ…

はああ…  
♡

…  
…  
…

ア  
ア  
ア

ア  
ア

ア  
ア



変身を解きなさい

その思まわしいB・A・Pを…  
プロテクター

カッ

脱ぎ捨てるのよツ!

ザッゴッ

だ、ダメだツ

ガキギ

それだけは…  
それだけはツ



飛鳥アツ

命令よ飛鳥、さあ…

プロテクター  
そのB・A・Pは  
オレ達の最後の  
希望なんだツ

絶対に…

はい…  
水鬼姫様…  
♡

なつ!?

ゴホッ



ツエゴオオオッ

ムヒート...

オフ...ッ

飛鳥ッ  
やめろ...ッ

やめるんだア  
アアア...ッ!

シエウウウ

ああ…ツ

そう…それでいいのよ飛鳥  
いいコね…

あはあ…

なツ…

なんてこった…ツ



カッ  
パッ  
パッ

ああ...っ

フッフ...

飛鳥っ!

ザッ

ドッ

ドッ



ズアアア

目覚めるのよ...

さあ...



ゴウッ



ピクッ



おまえは今日から…

その身も心も邪に  
染まりし魔導の者…

スウッ



我に尽し、我に従う  
忠実な兵士…

あ、飛鳥…？

フアッ





魔王復活のために  
全てを捧げる

新たなる我が  
しもべよ……

そ、そんな……  
ウソだろ……？

フナ  
フナ

オオ

オオ

オオ

オオ

オオ

オオ





フフフ…

脆弱な人間の身を  
捨て去り…

ス



生まれ変わった  
気分はどうかしら…？

飛鳥

…いいえ

新たなる  
ジャーマニー  
邪魔忍…!!

「水鳥」…ツ!!

カッ

有難うございます  
水鬼姫様…ツ

とても清々しく…何もかもが  
最高の心地です…!!



ジャーマニー スワン  
邪魔忍 水鳥

はああ…っ

素晴らしい魔導の力を  
感じます…

×キィ

ビキ  
ビキ  
ビキ

この圧倒的な力で…憎悪のままに  
敵を破滅させられると思うと

全身に力が漲って…  
ああ…抑えきれない…っ

飛鳥…？

な…何を  
言ってるんだ

ズ  
グ  
ッ



フフフ素晴らしいわ水鳥スワン

ではおまえの為すべき事は  
判るわね…？

無論です

水鬼姫様…ツ

私はあなたに命を捧げる  
従順な奴隷…

ガ  
オオ

そして

私に与えられた  
使命は…ツ！





魔導の悲願…  
「魔王復活」を邪魔する

憎つくき怨敵  
本能寺一族を悉く  
皆殺しにする事…ッ

ギラッ

なっ…？  
飛鳥ツおまえ

ガ  
オ  
ン

ま、  
待て…ッ



ガ  
ア  
ッ

飛鳥アツ

オレだ…ッ  
判らないのか？

飛鳥ッ



…お兄ちゃん

飛鳥…ッ!?

良かつ…

ごめんね…



!?



私はもう  
本能寺飛鳥  
じゃないの…ツ

偉大なる水鬼姫様  
に忠誠を誓った…

グワッ

ジャーマニー  
邪魔忍  
スワン  
水鳥!!

あ…ああ…

うわあああ  
あああツ!

や、やめろ…ツ

水鬼姫様に  
逆らうゴミ共  
は私のこの手で  
抹殺するツ!

END







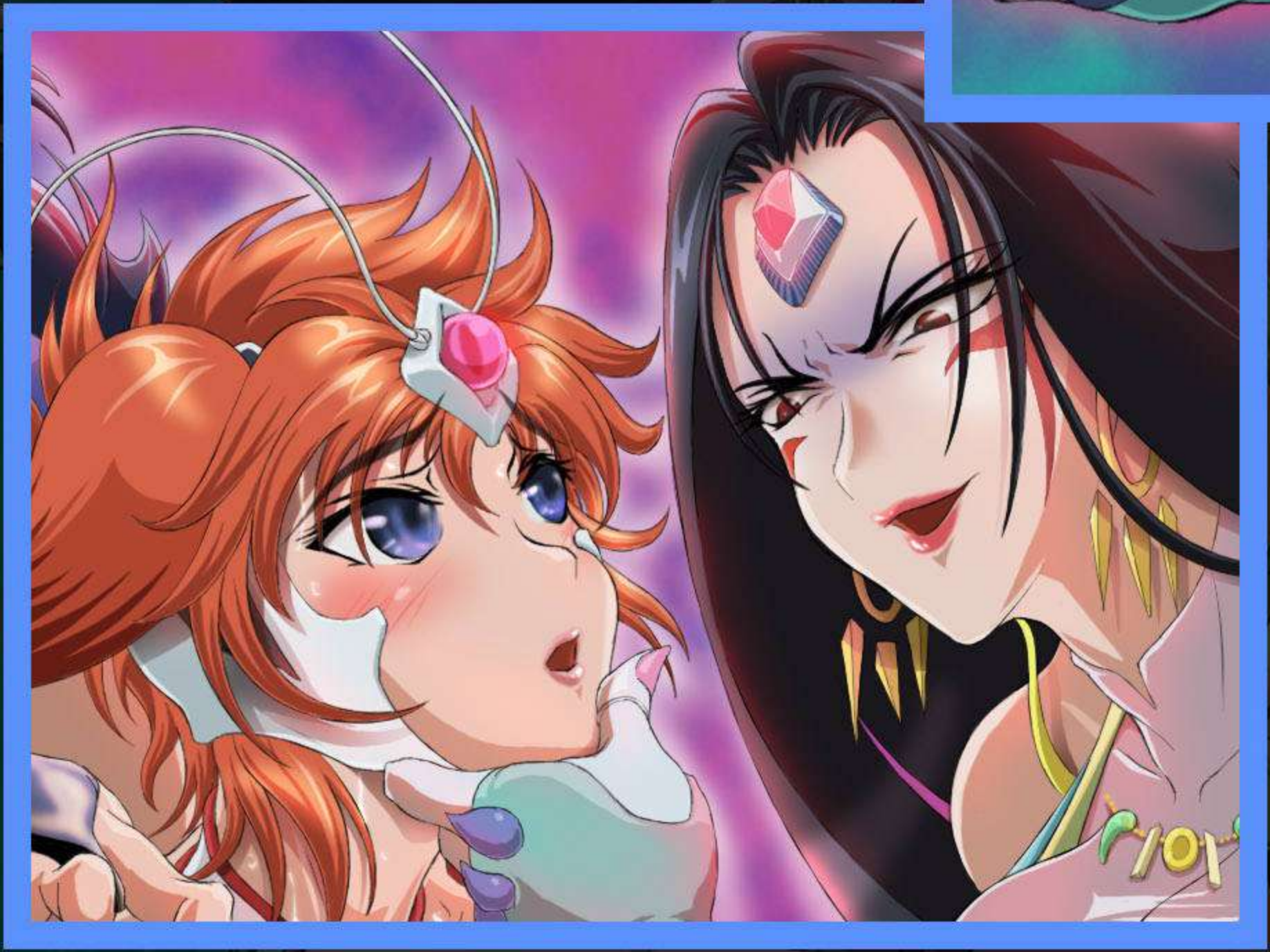




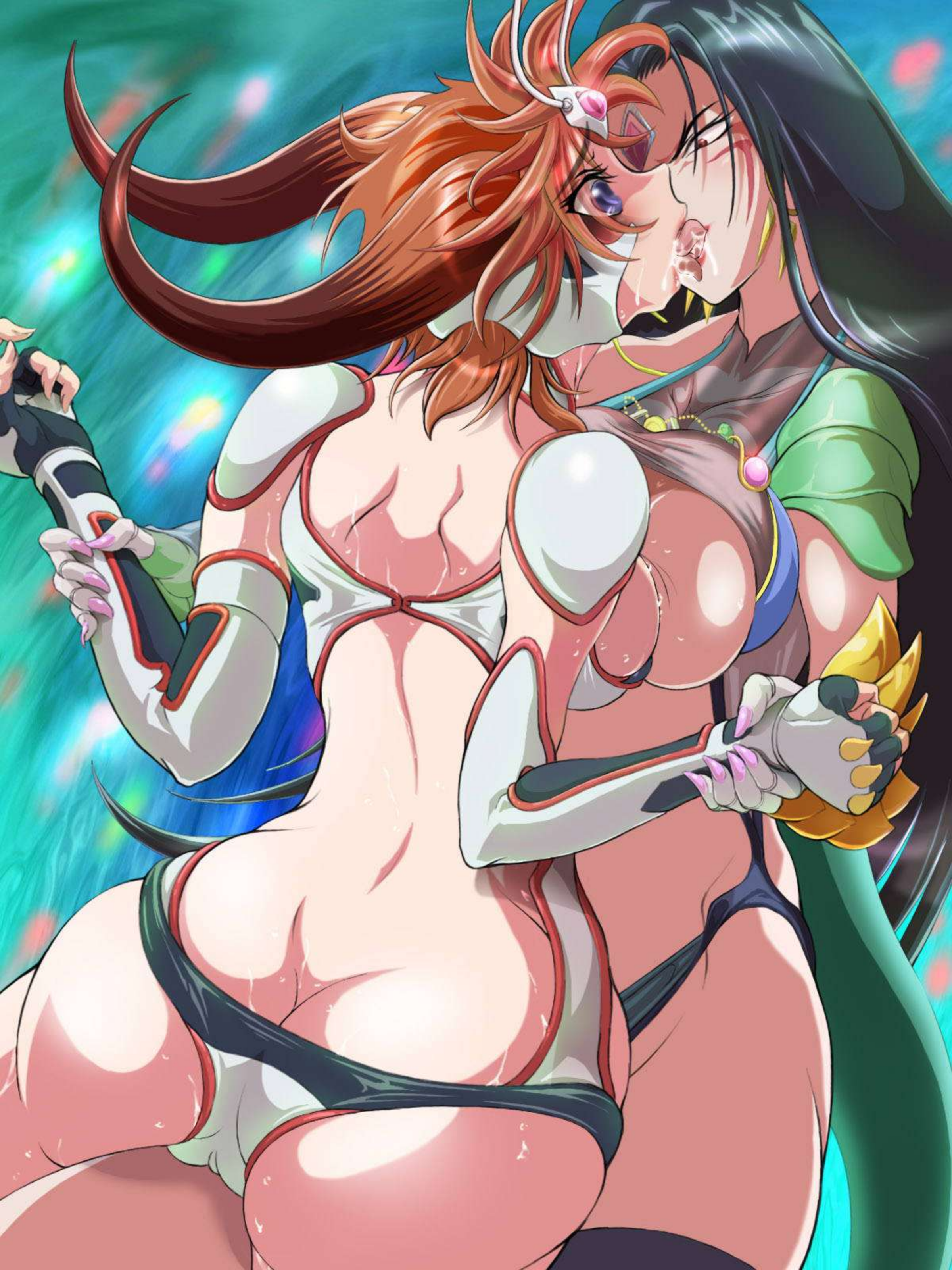


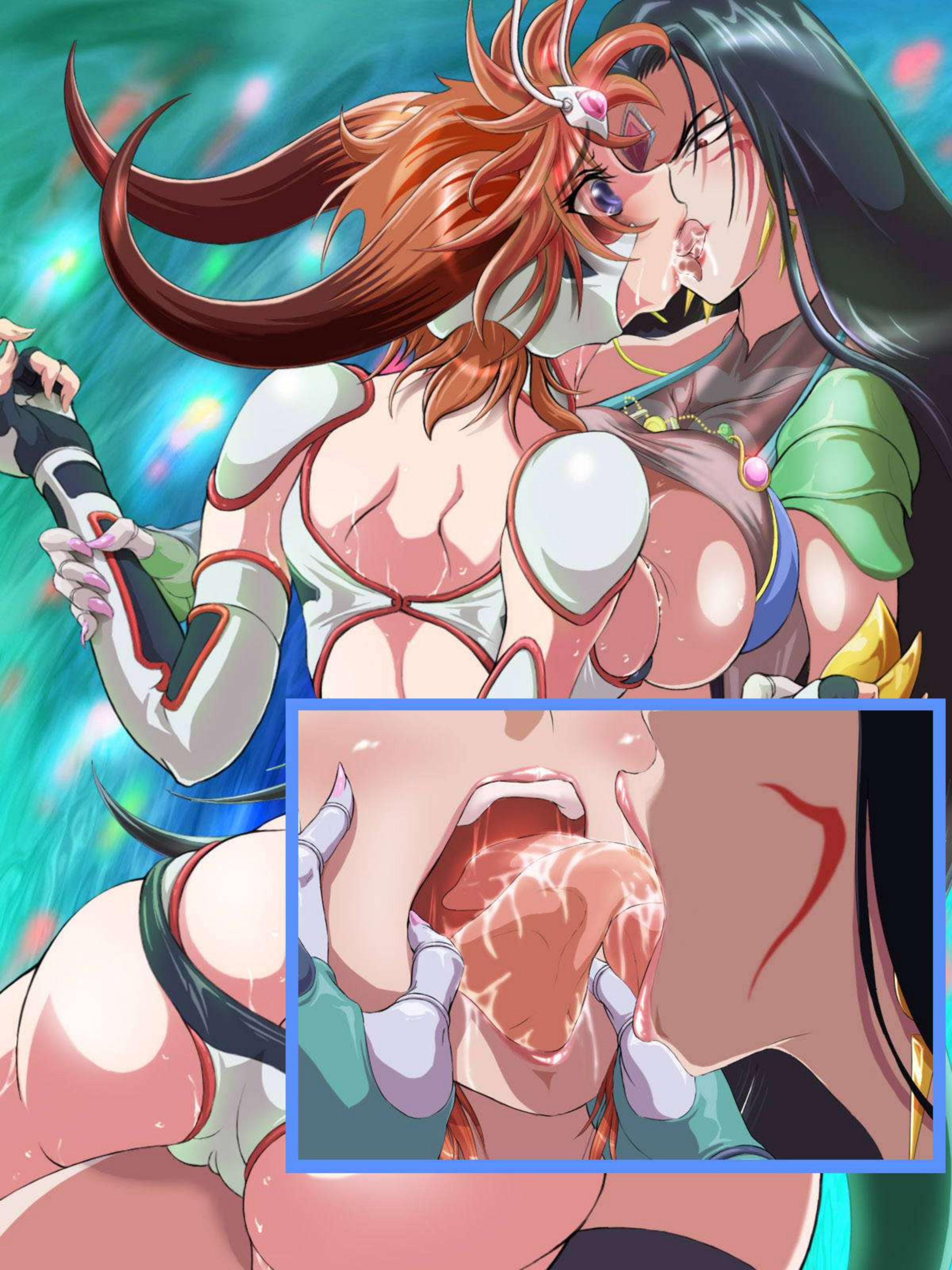


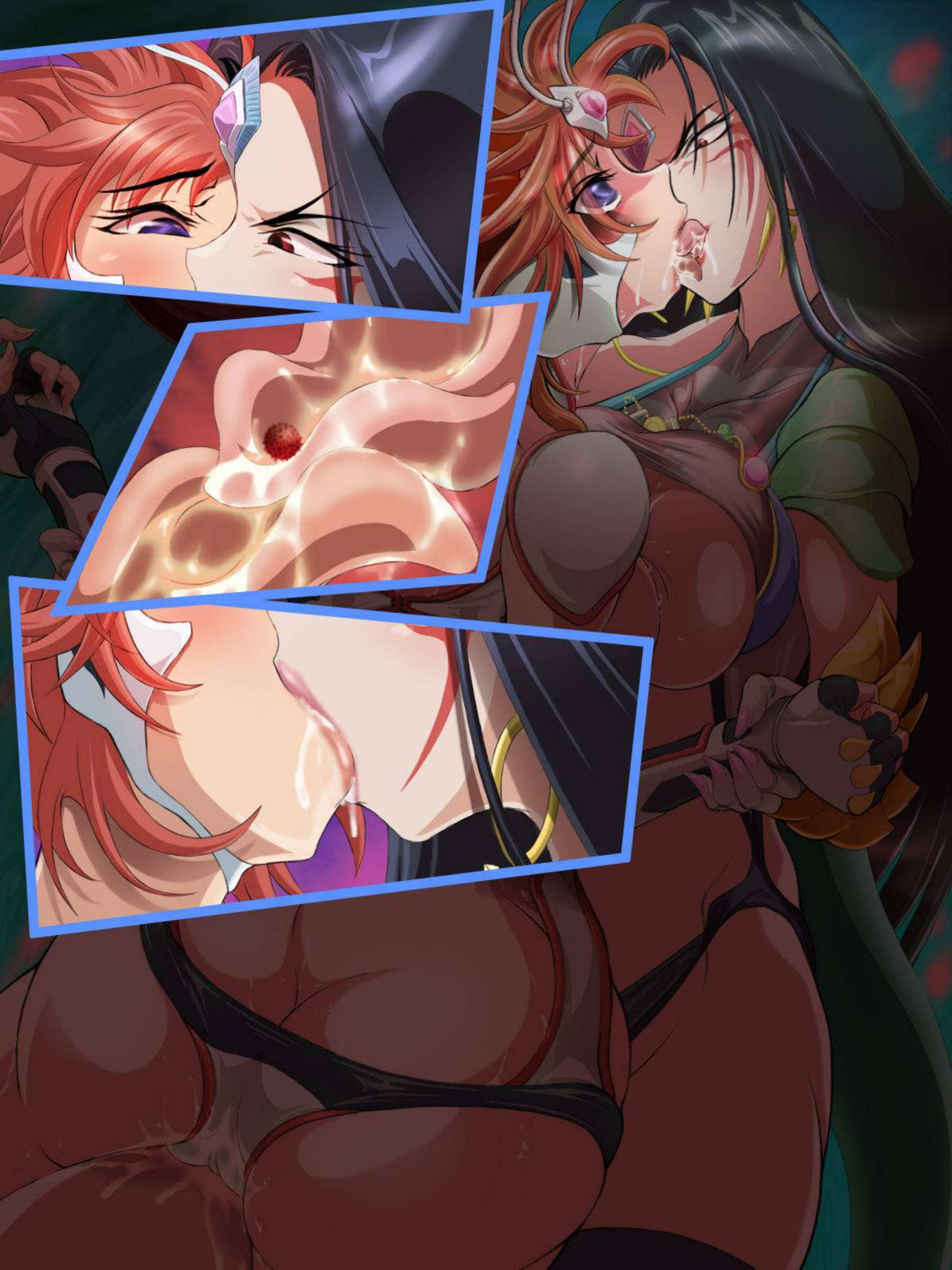


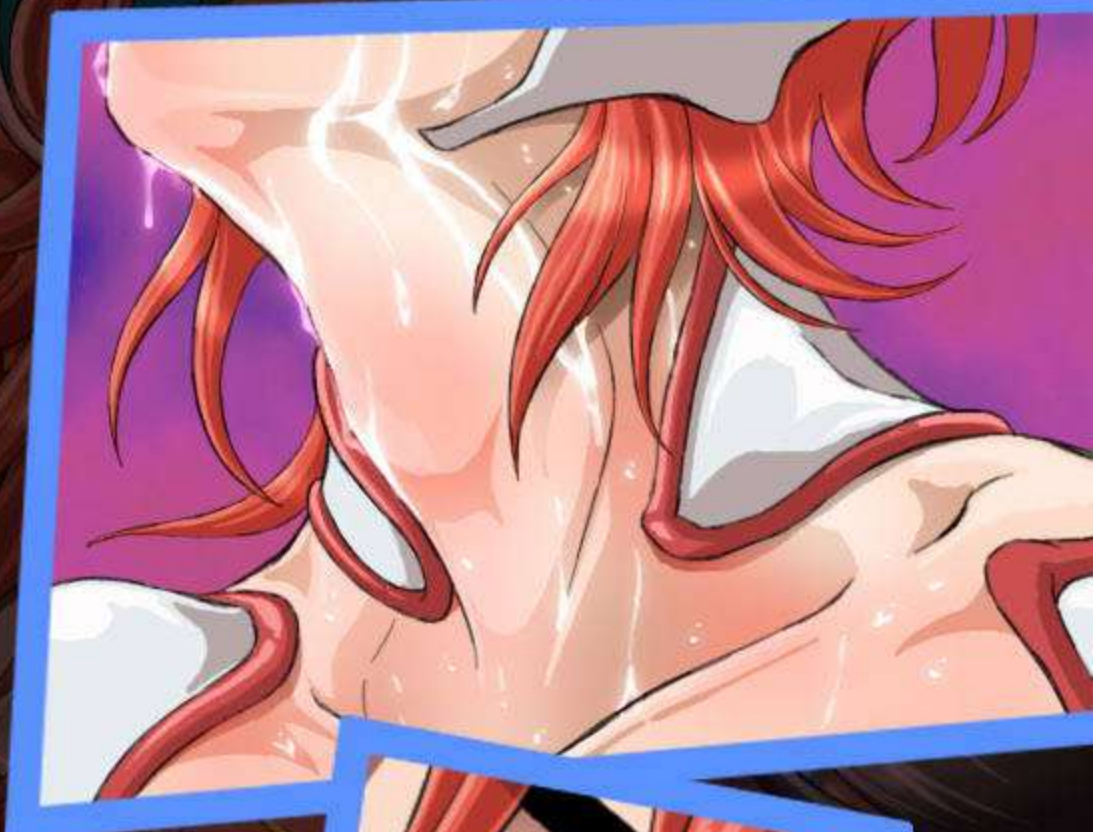
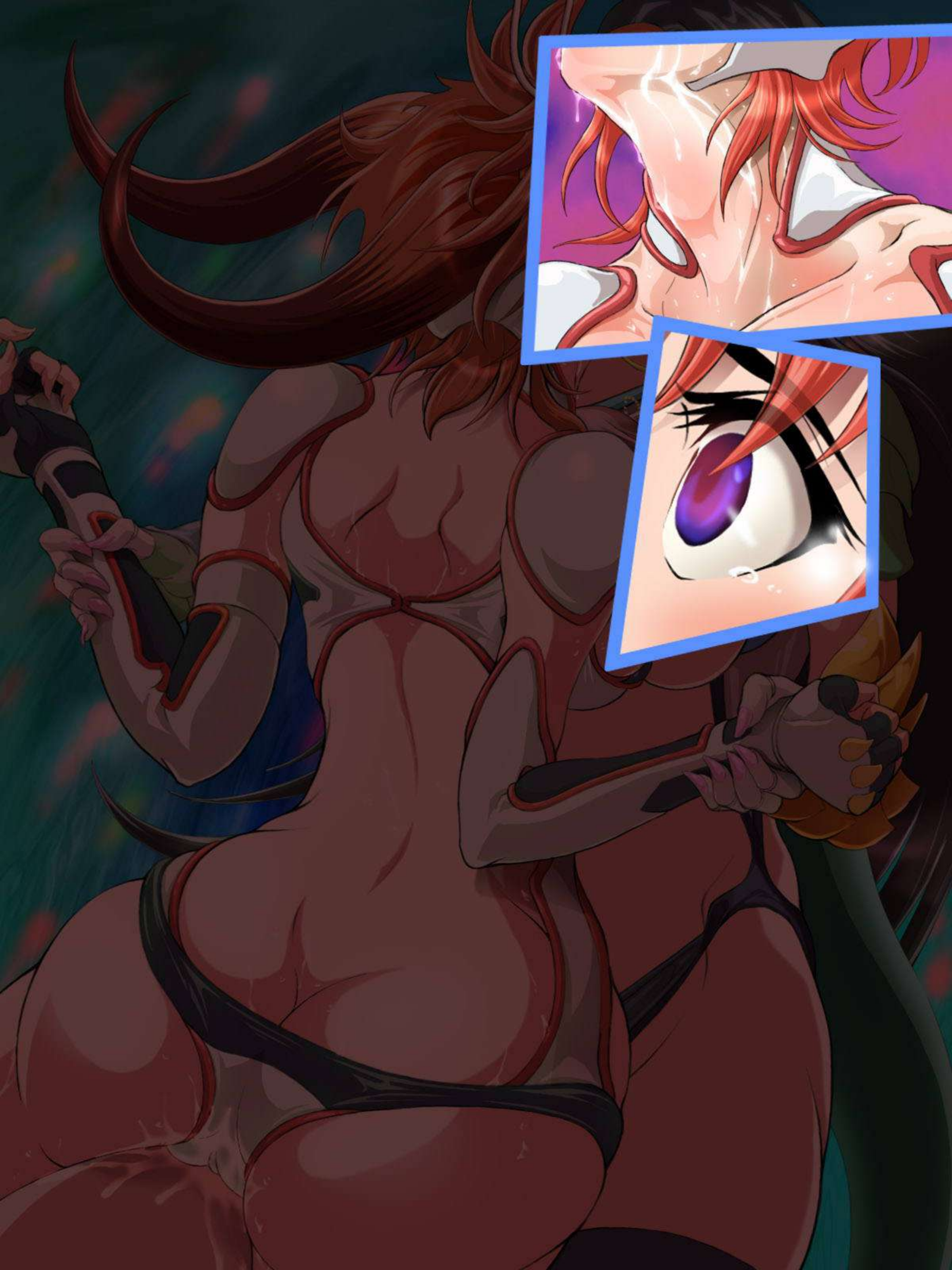


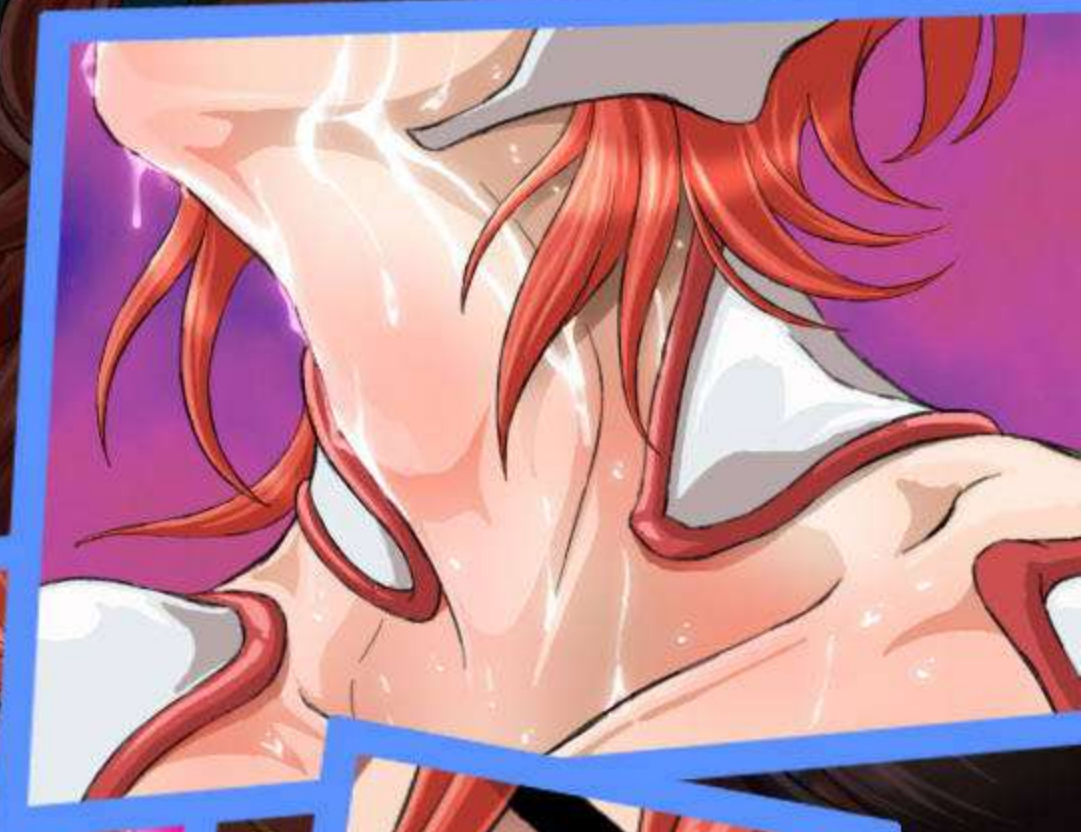
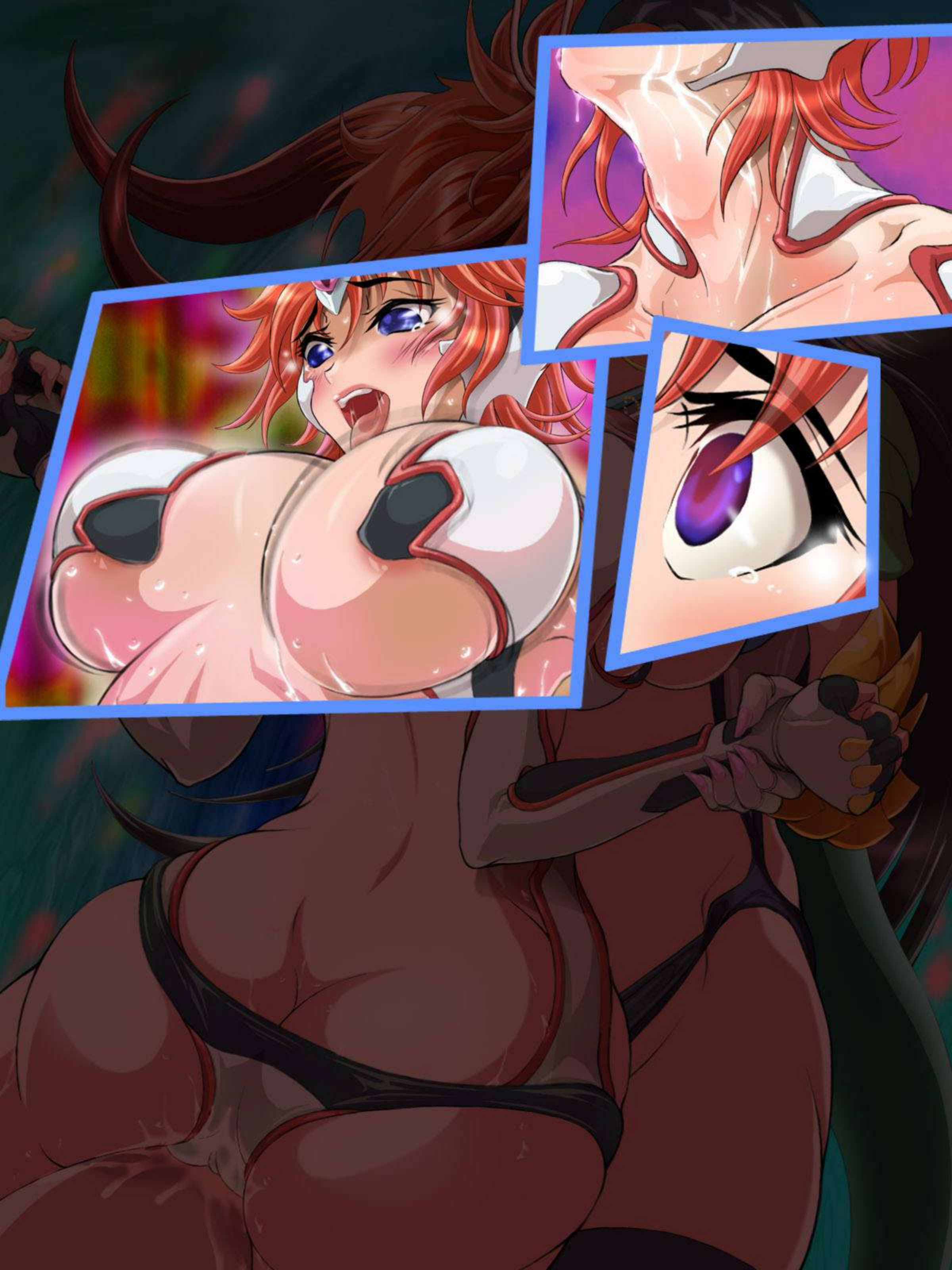


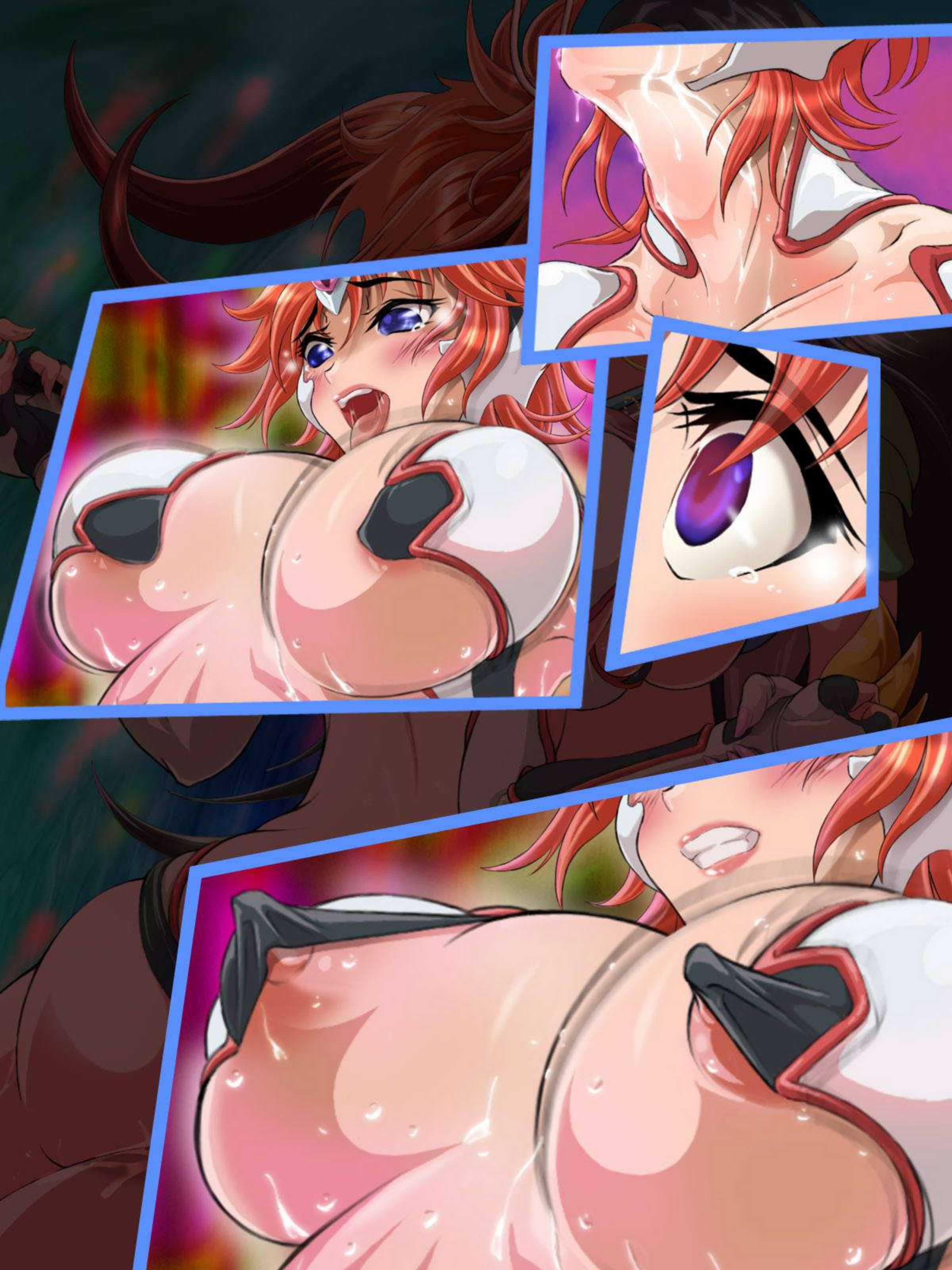




















































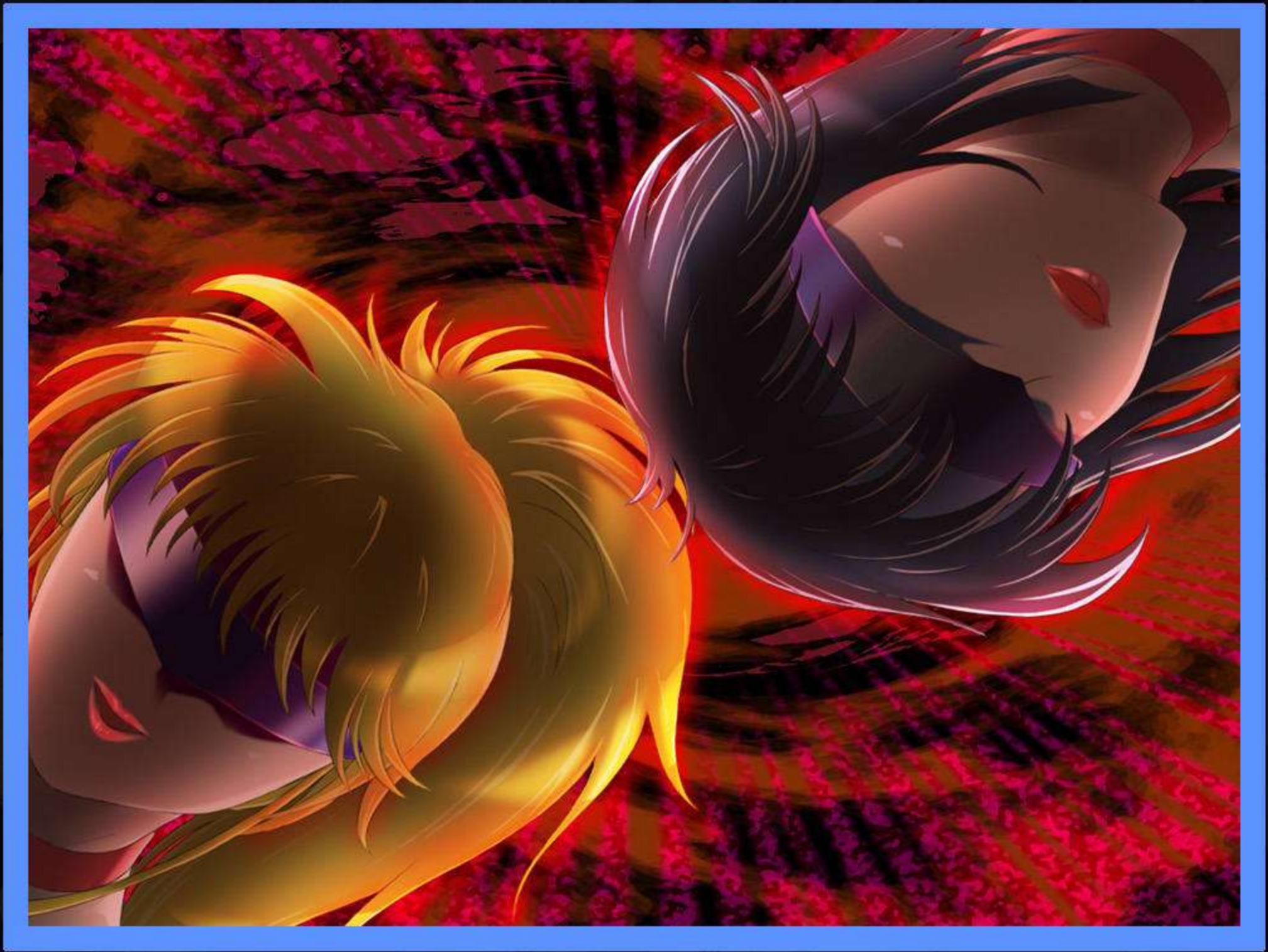




















































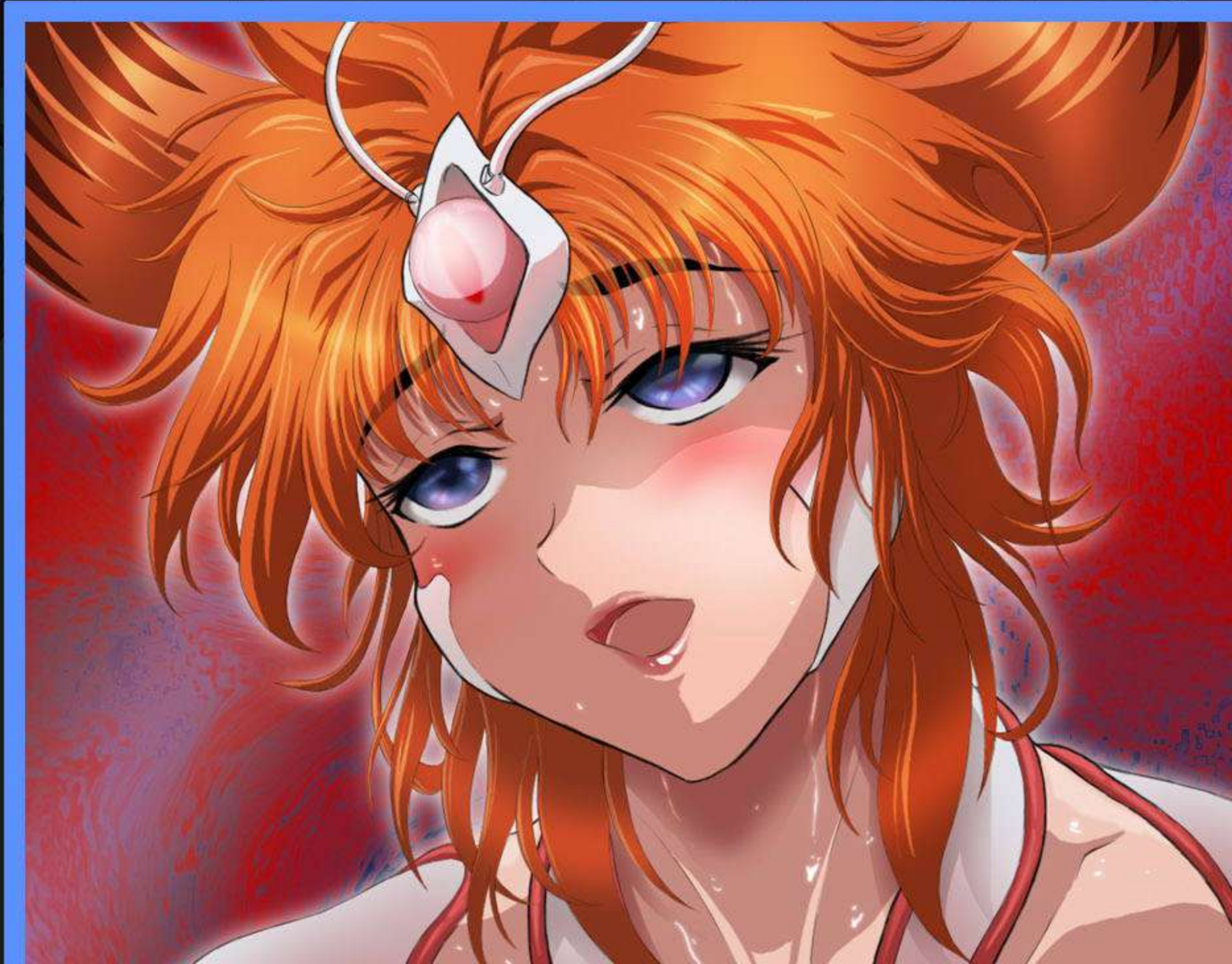




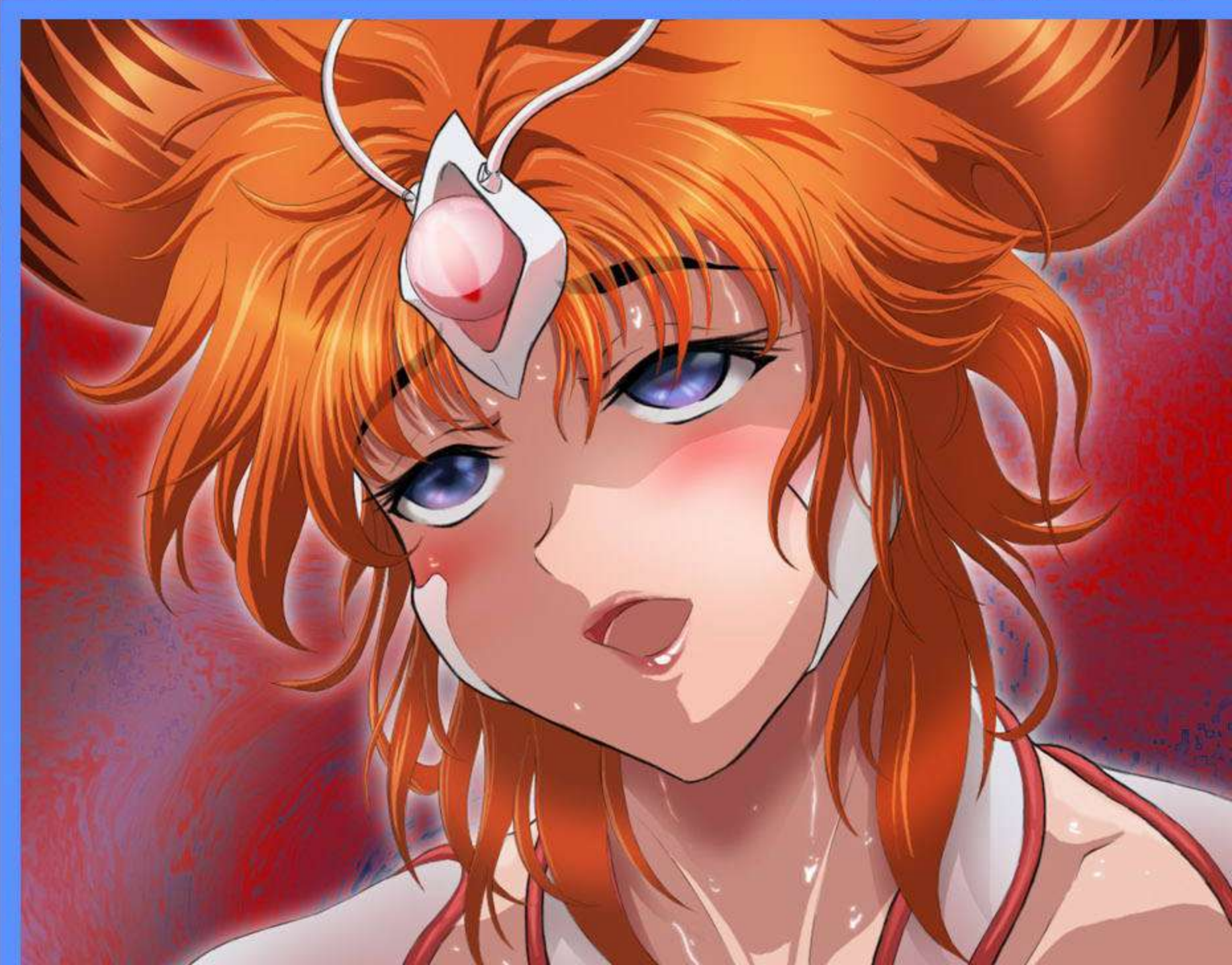


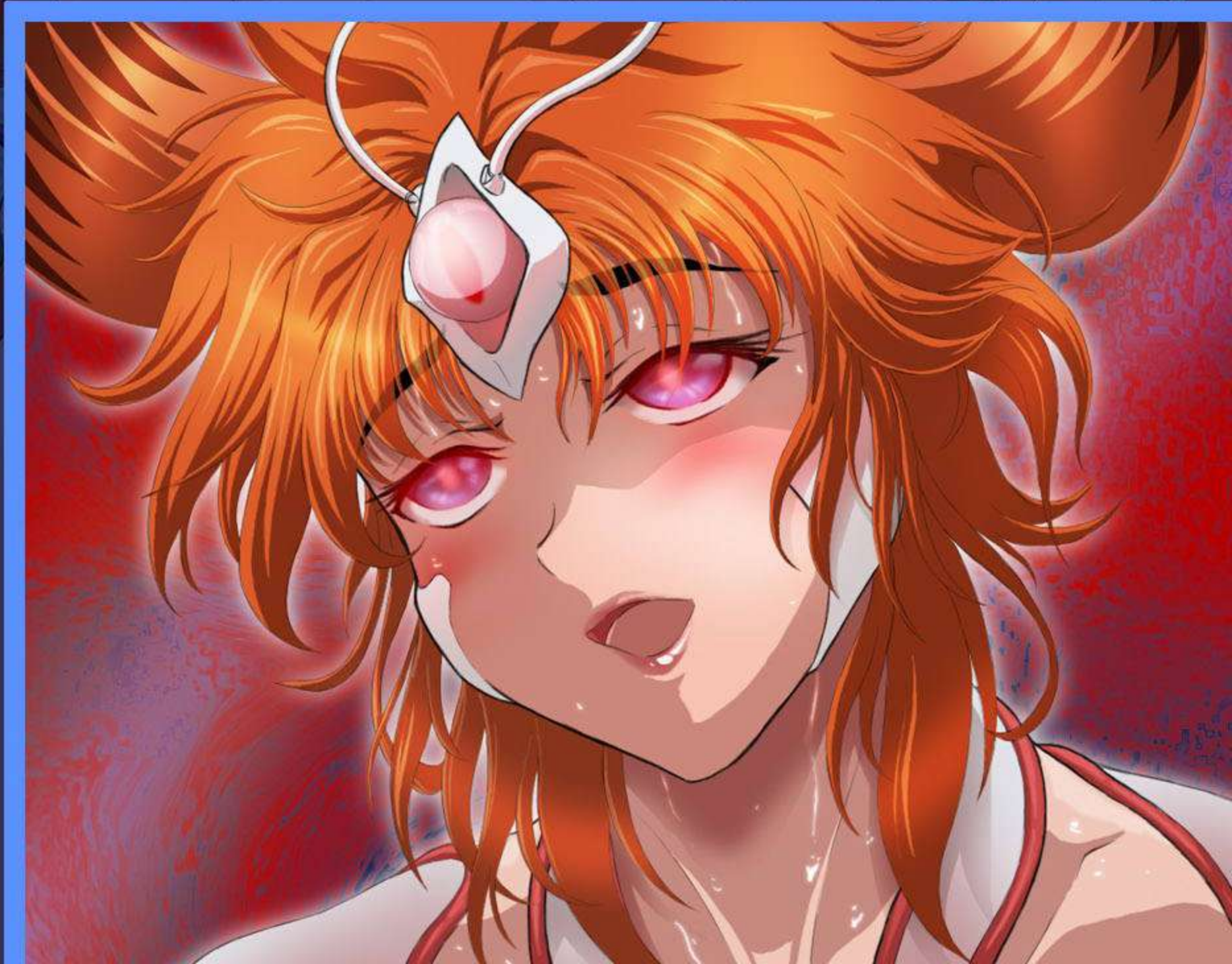






























































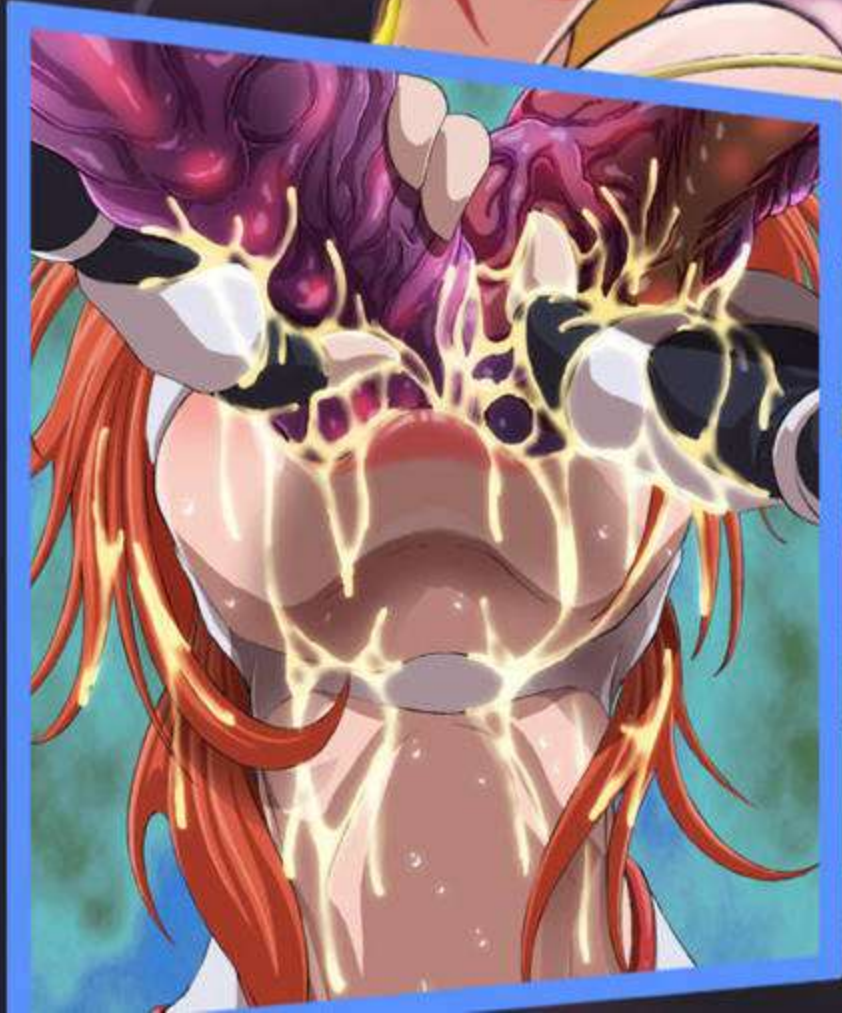


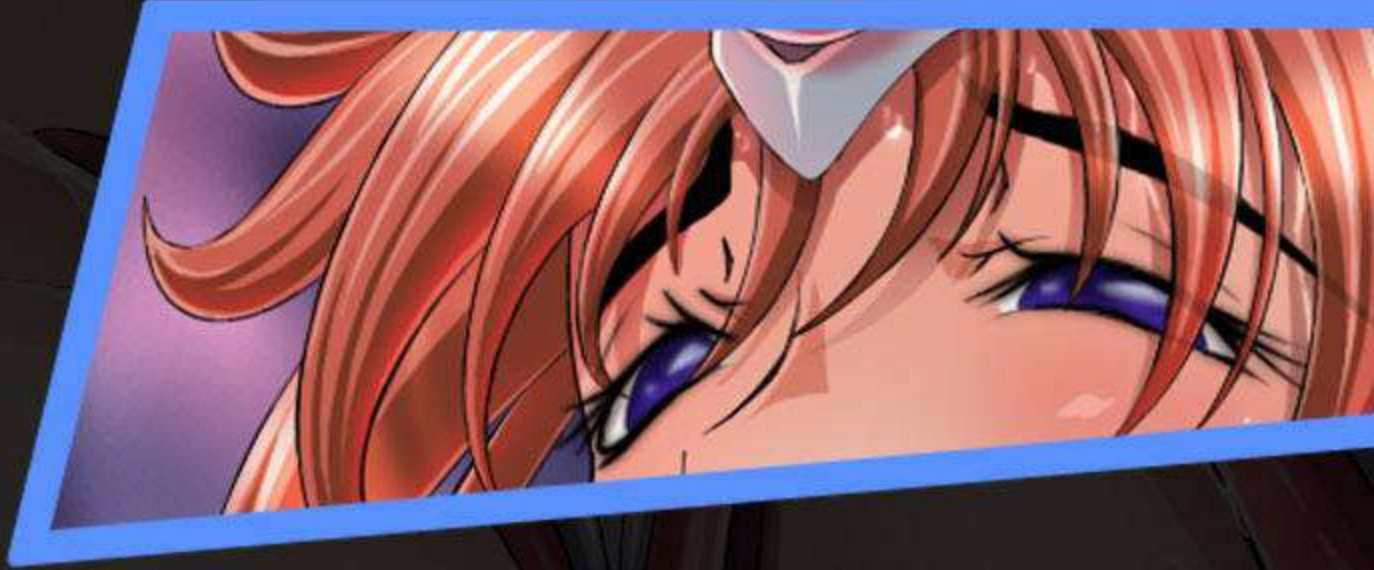
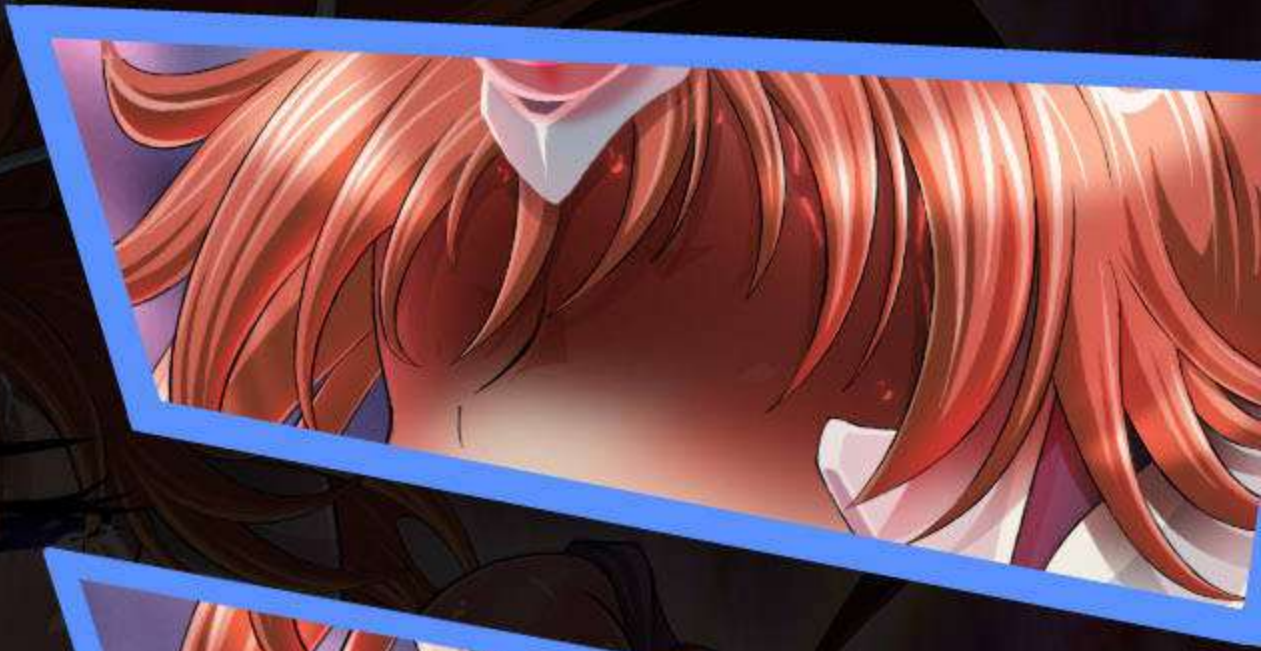




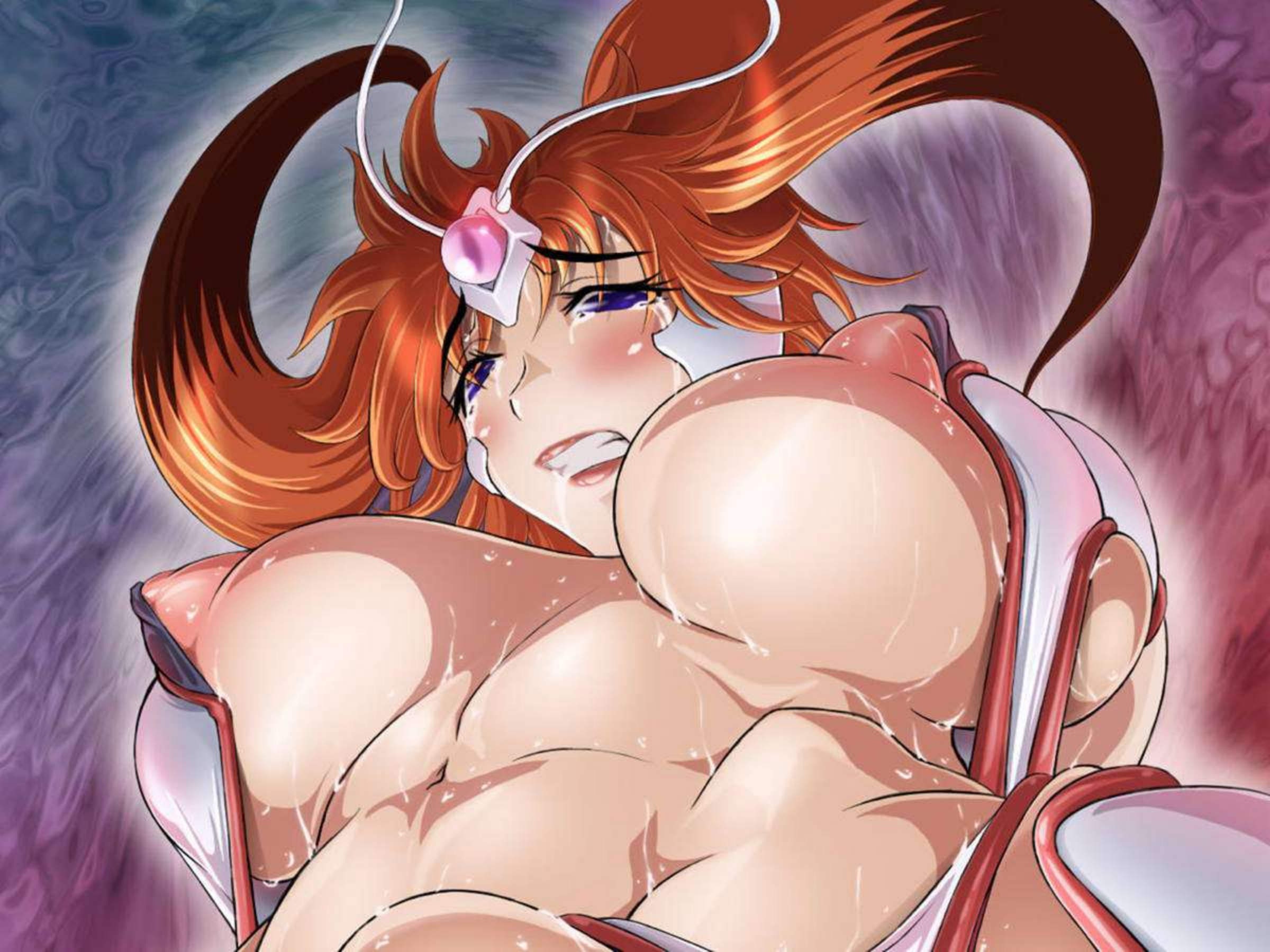


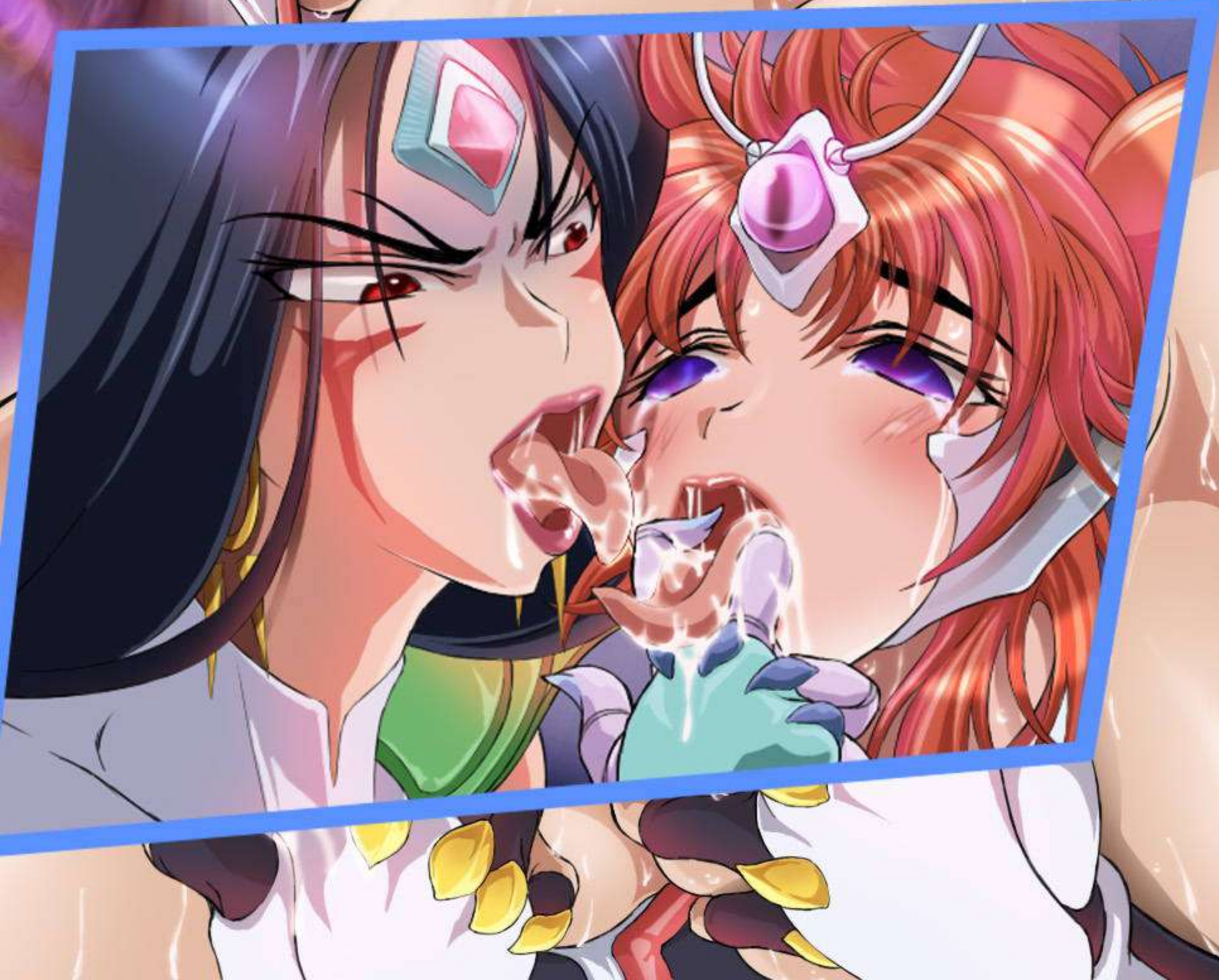












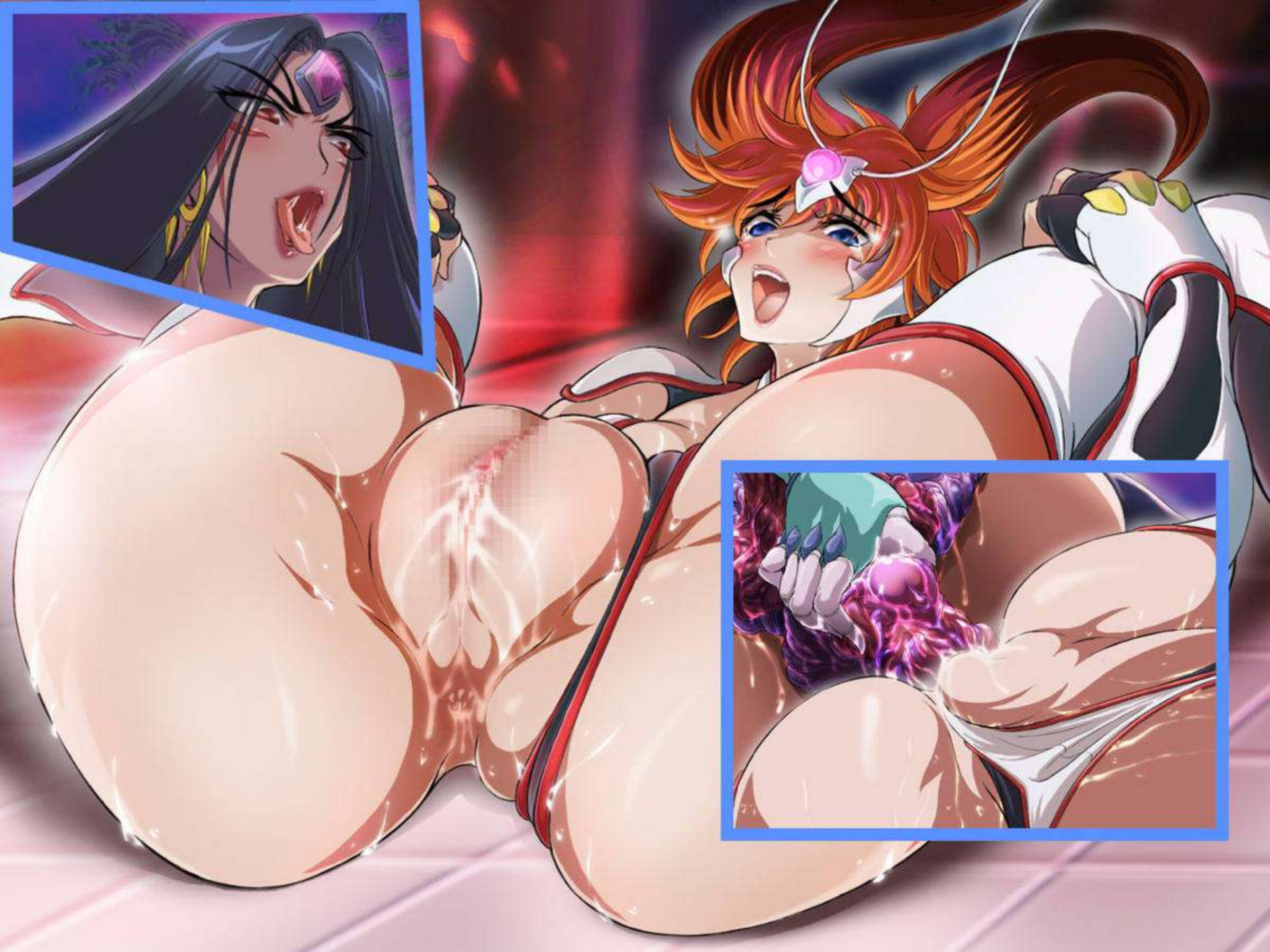
















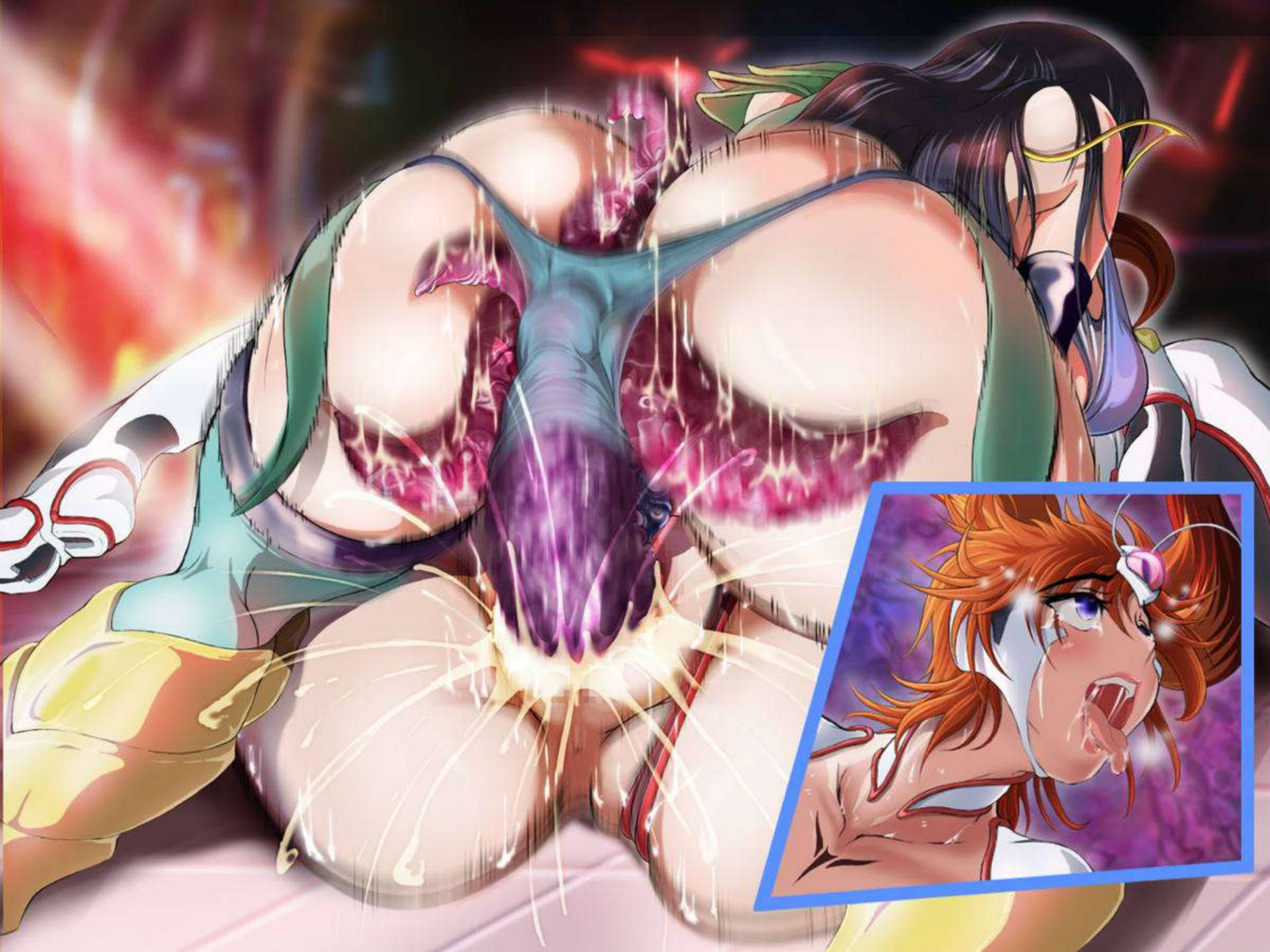




























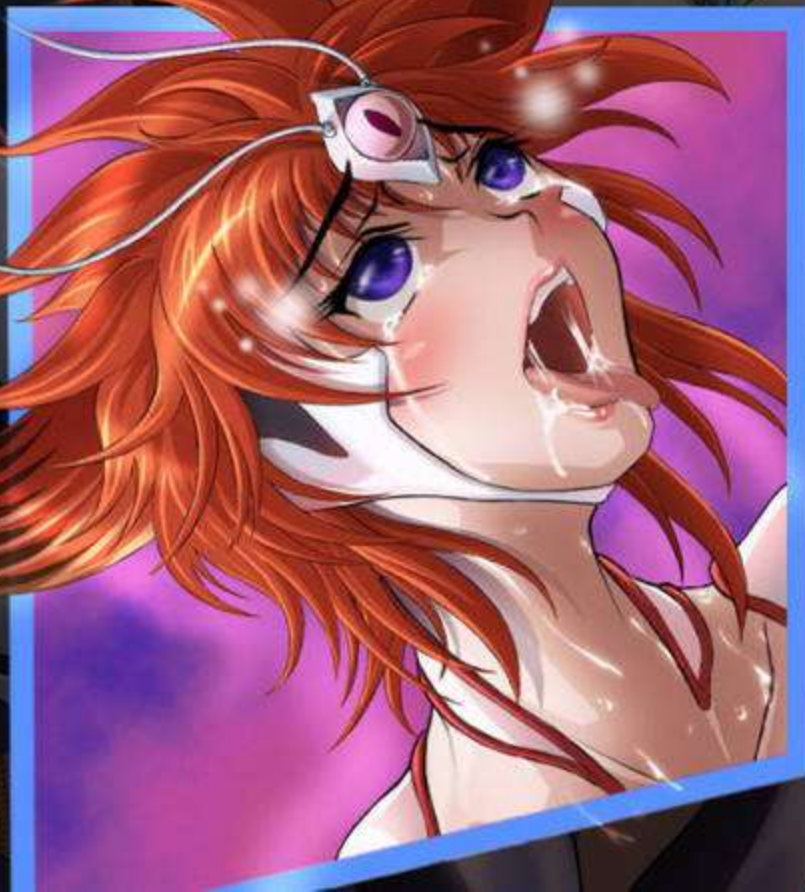
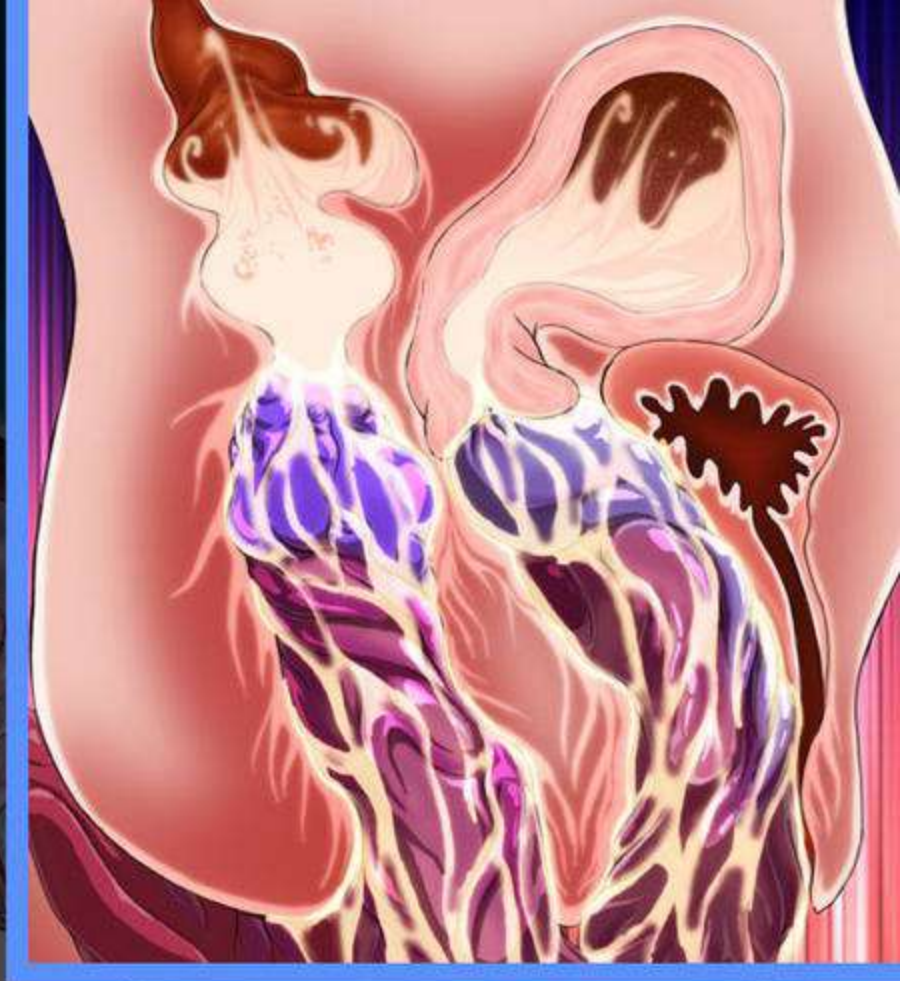
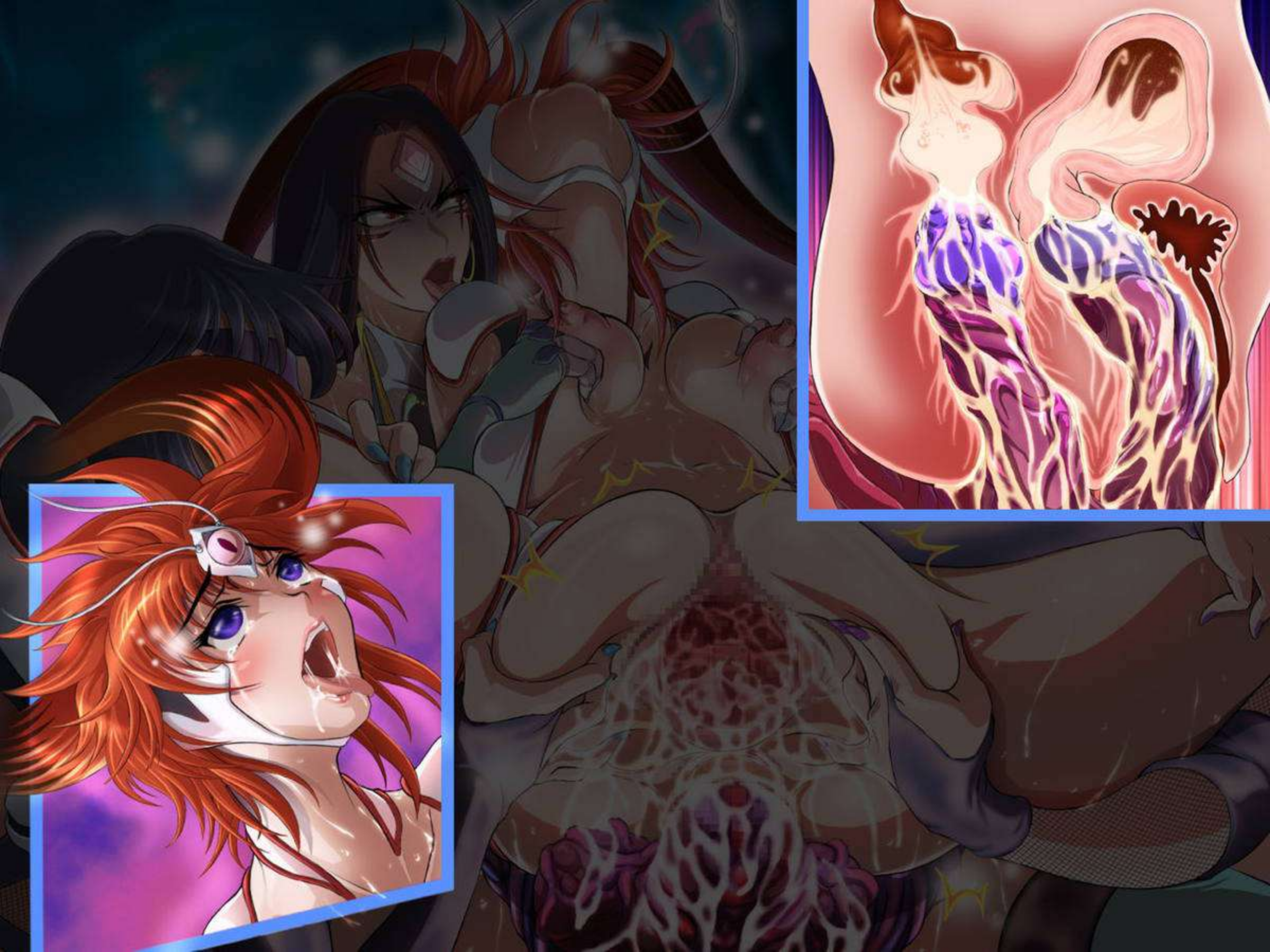










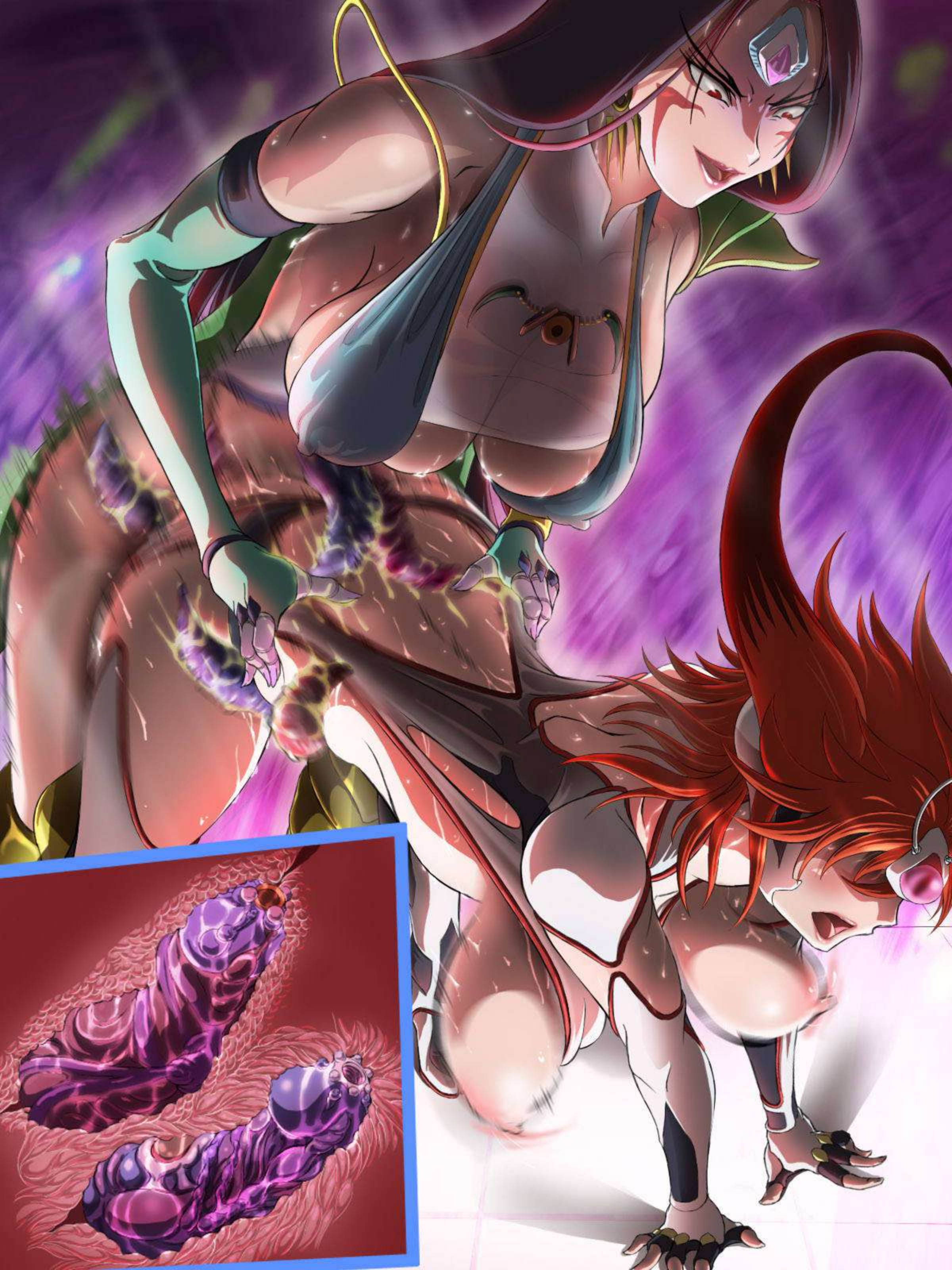


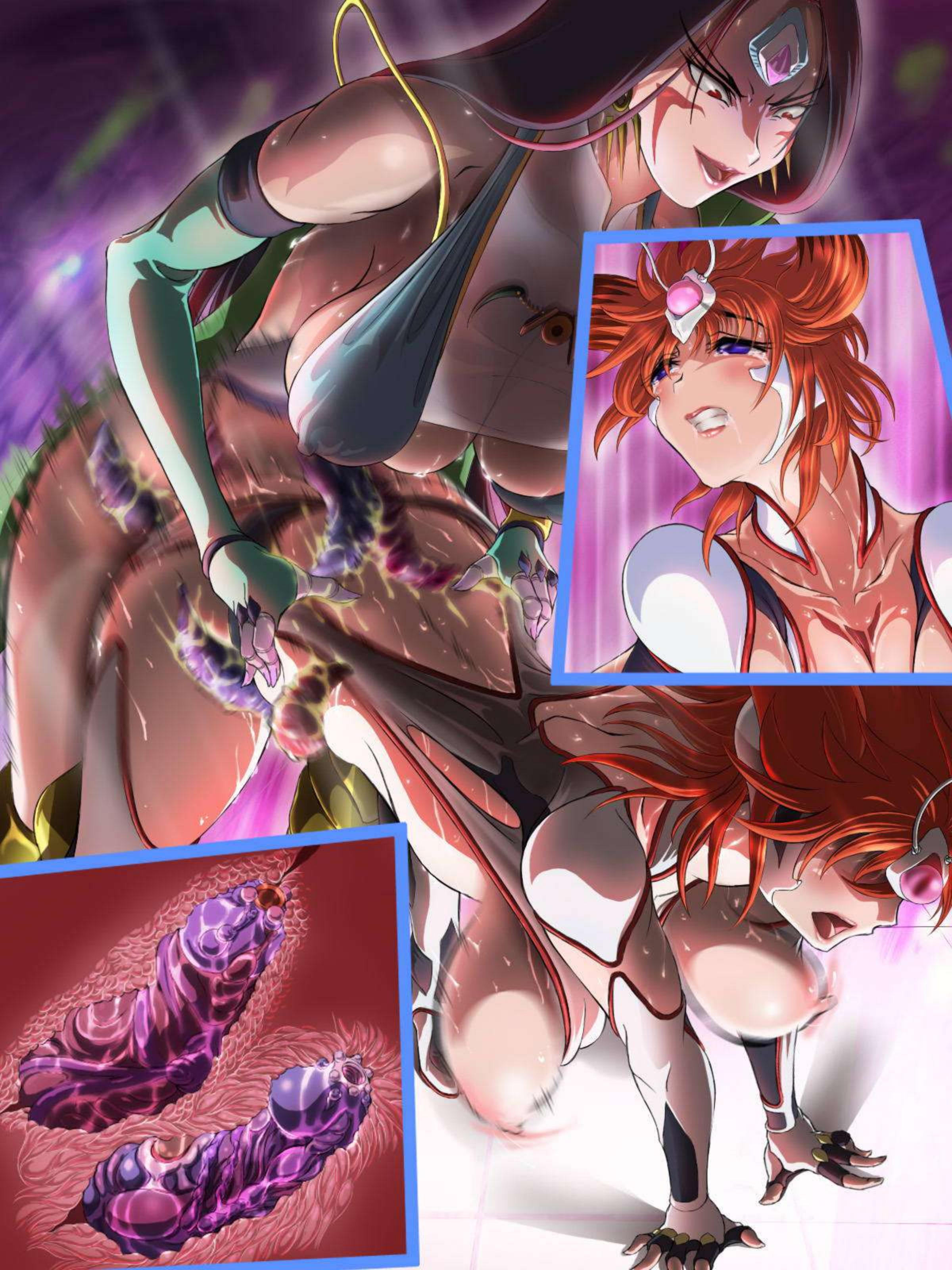


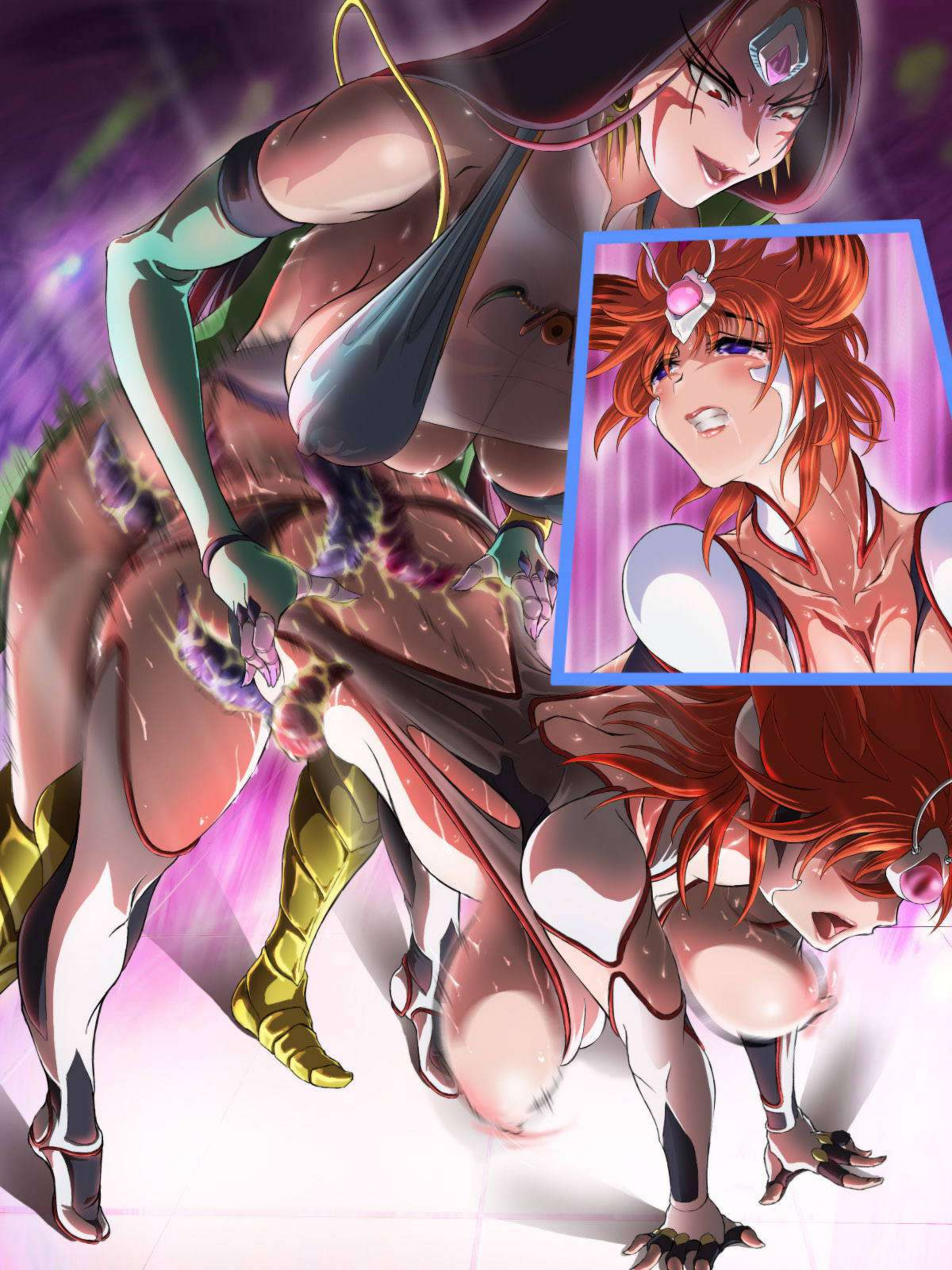


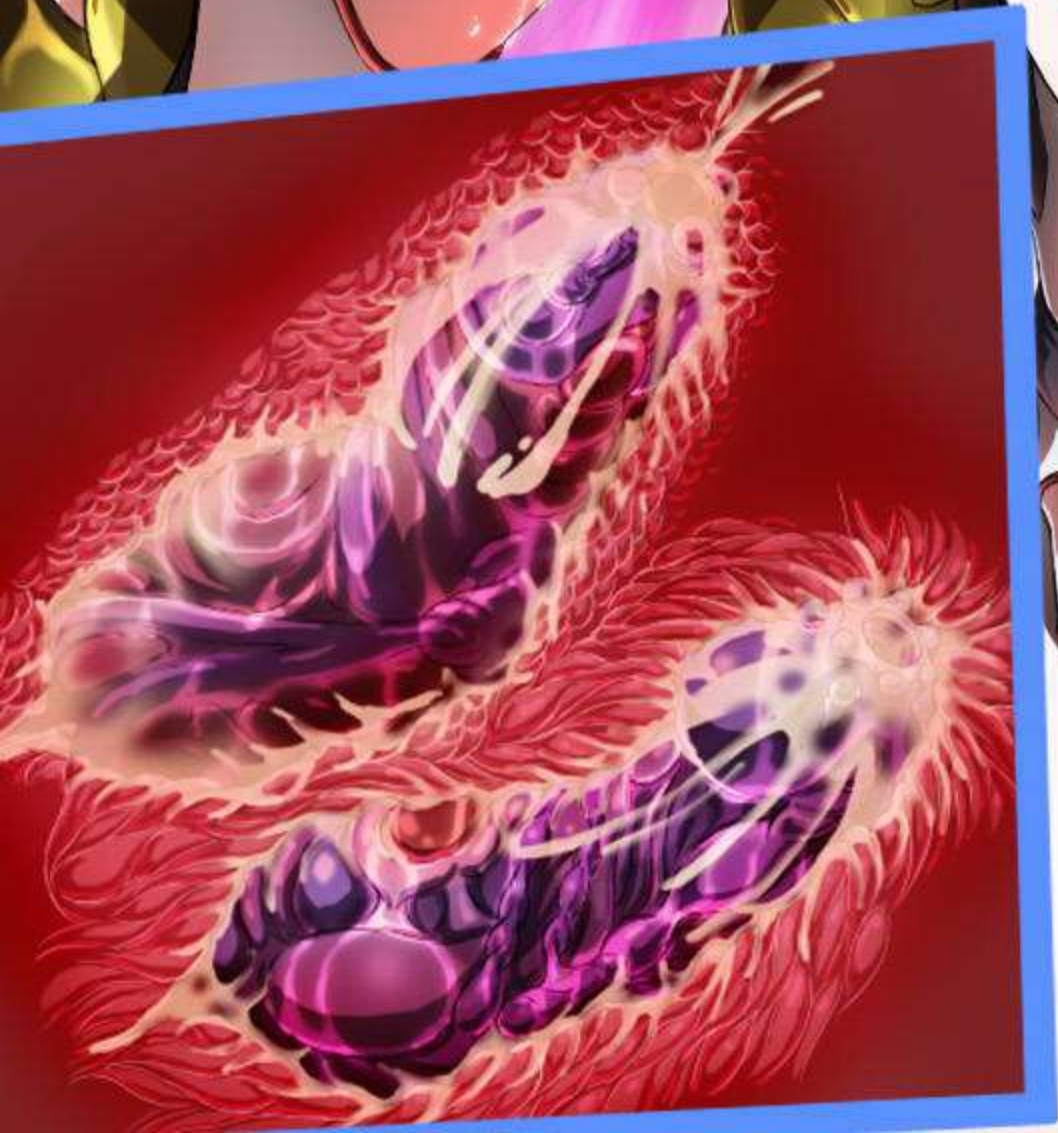
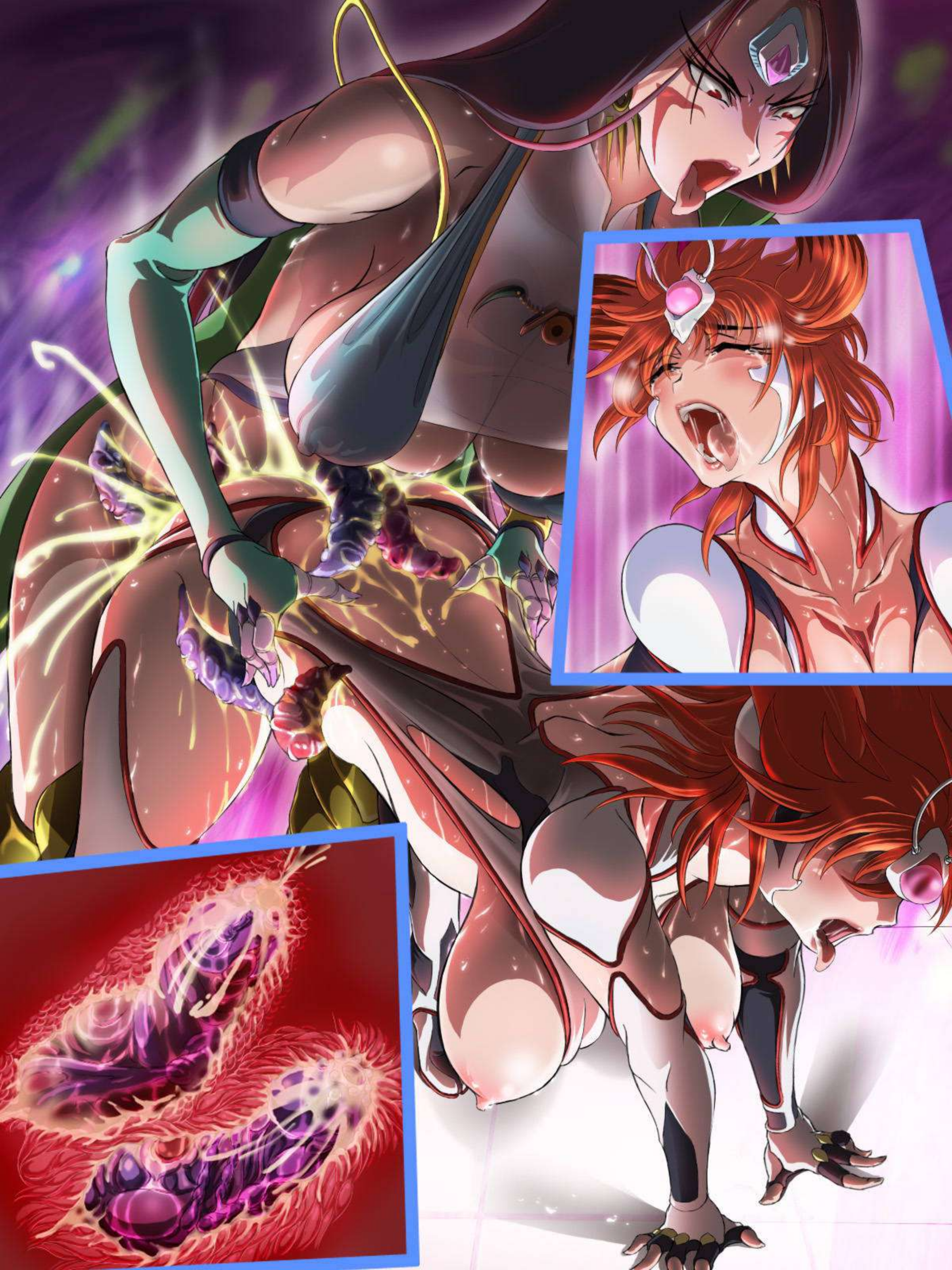


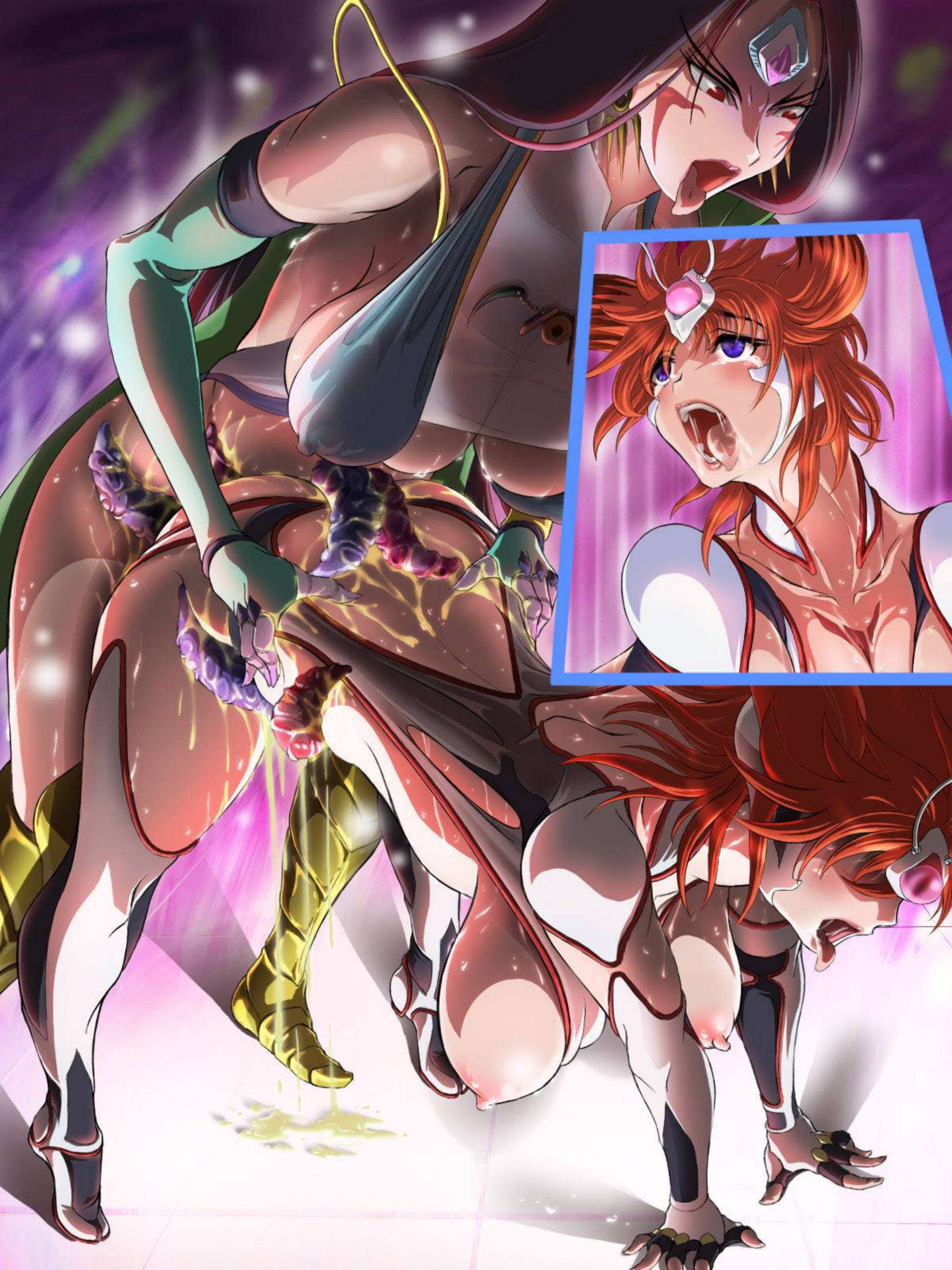












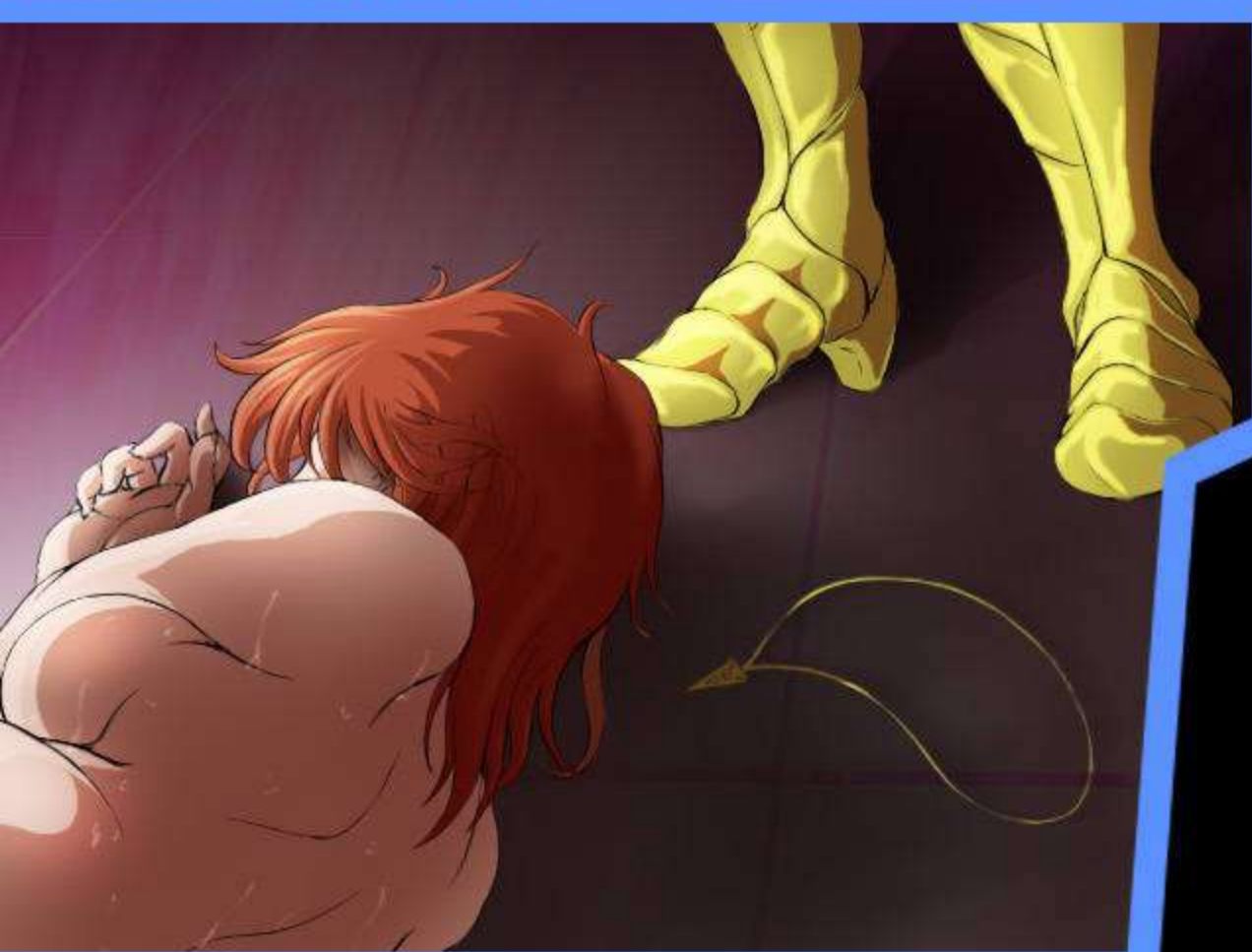


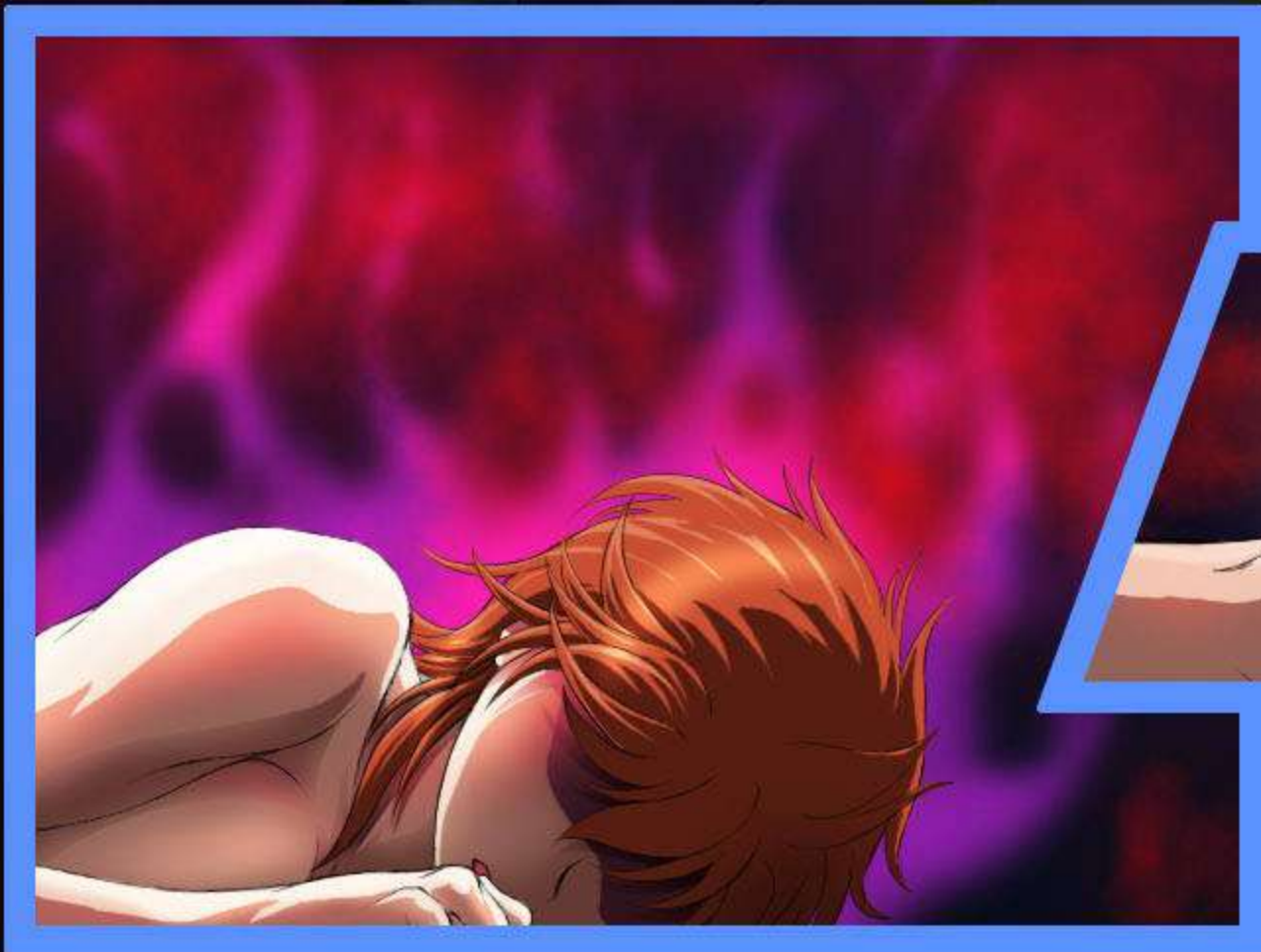
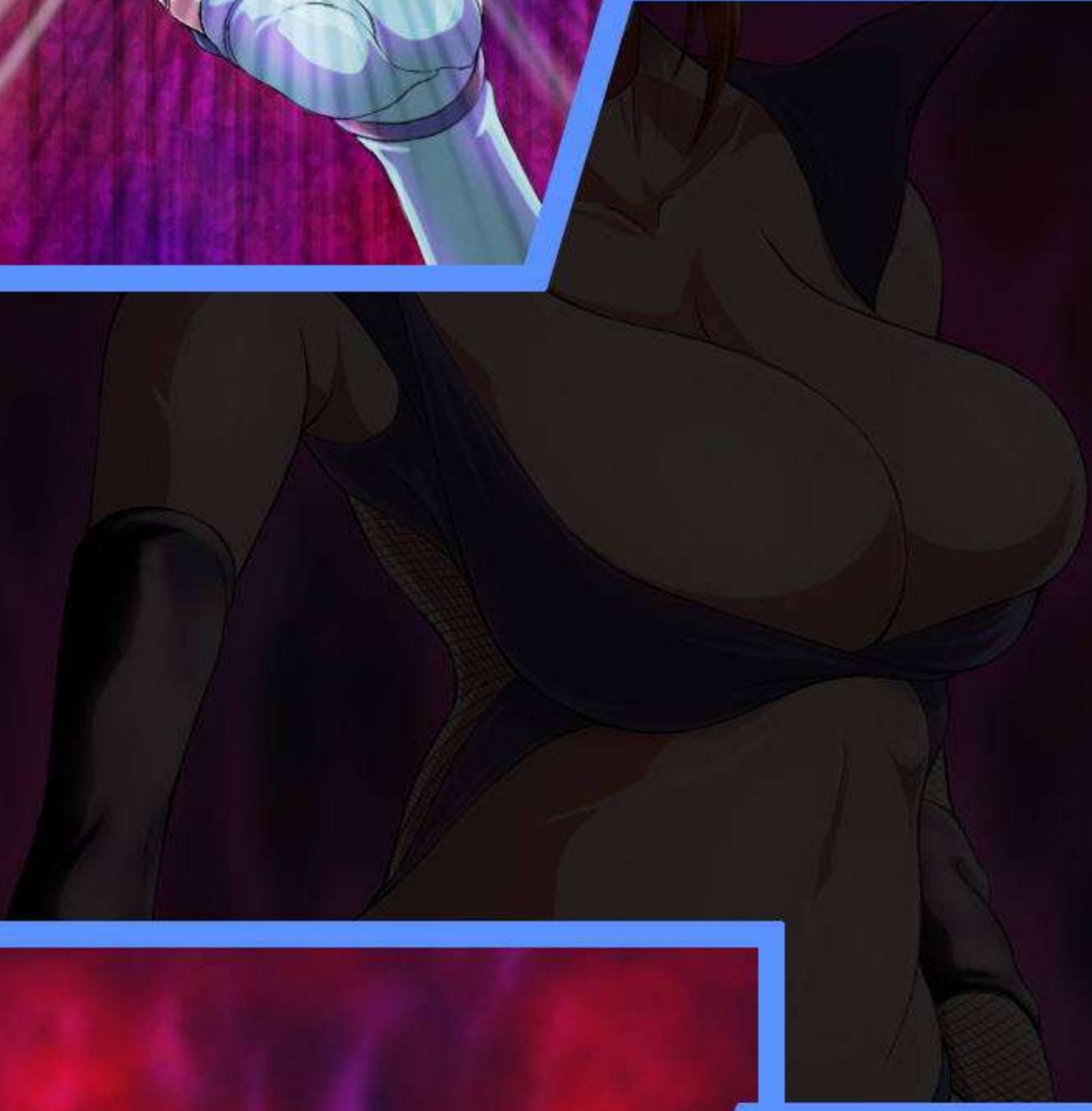


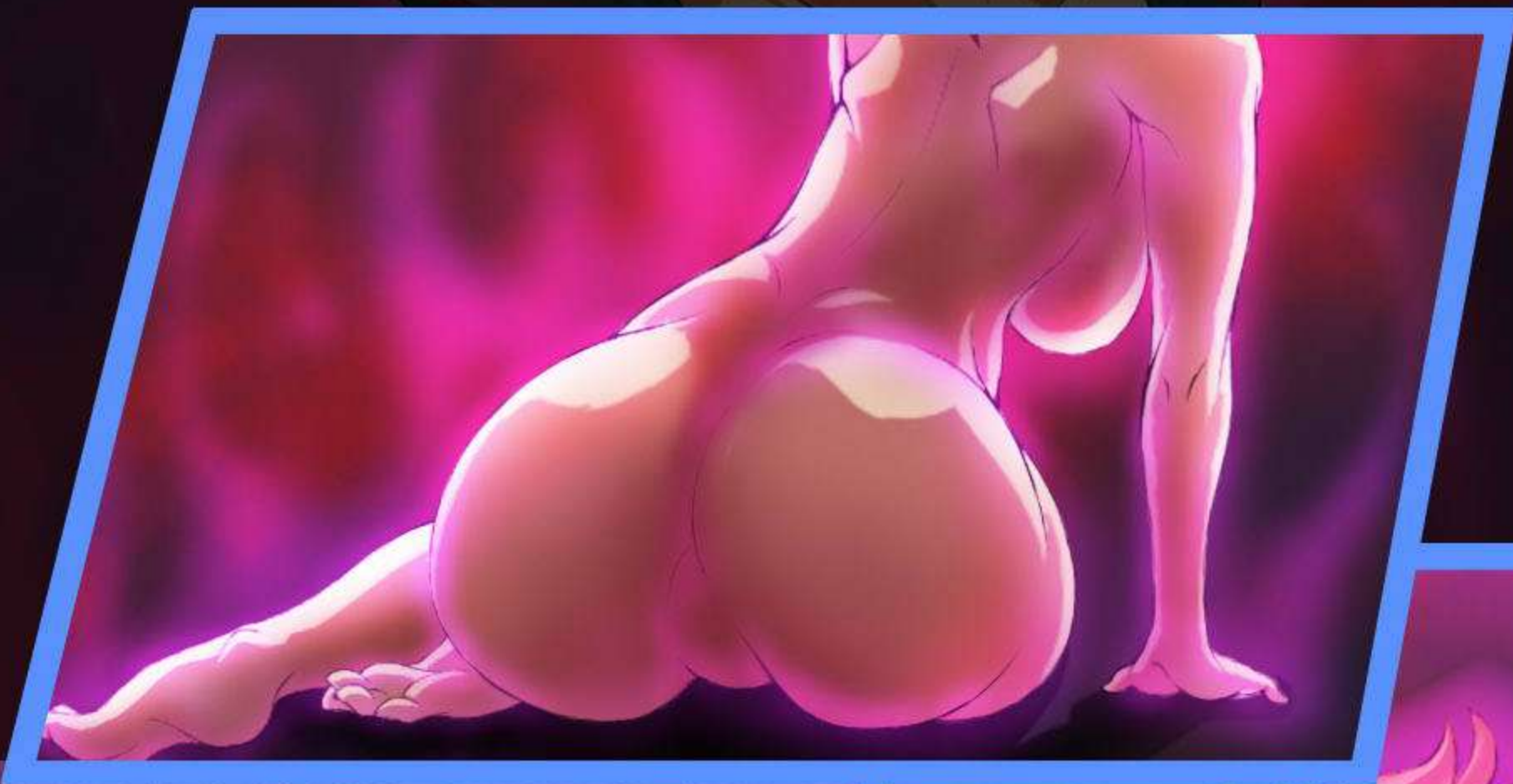


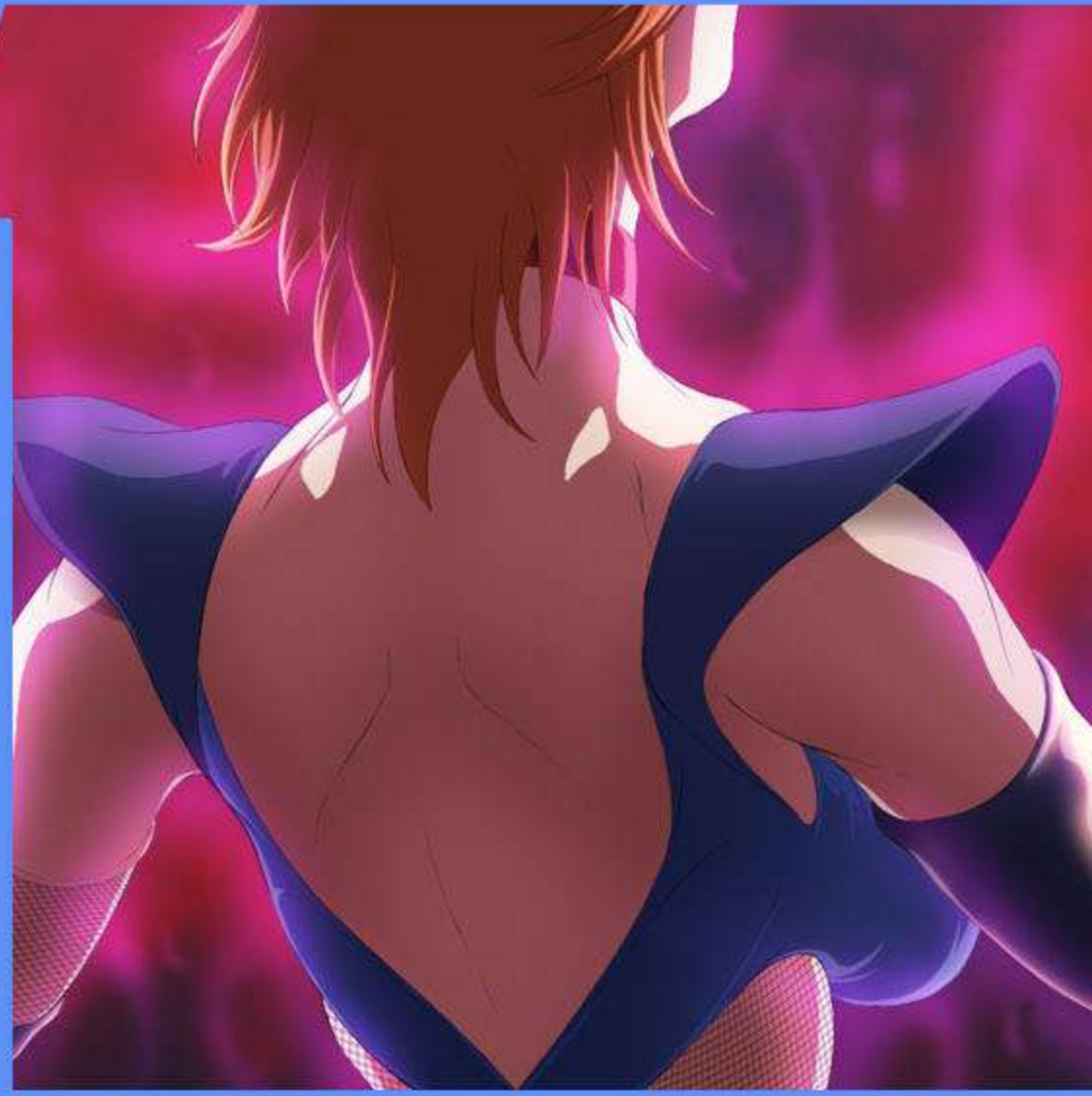
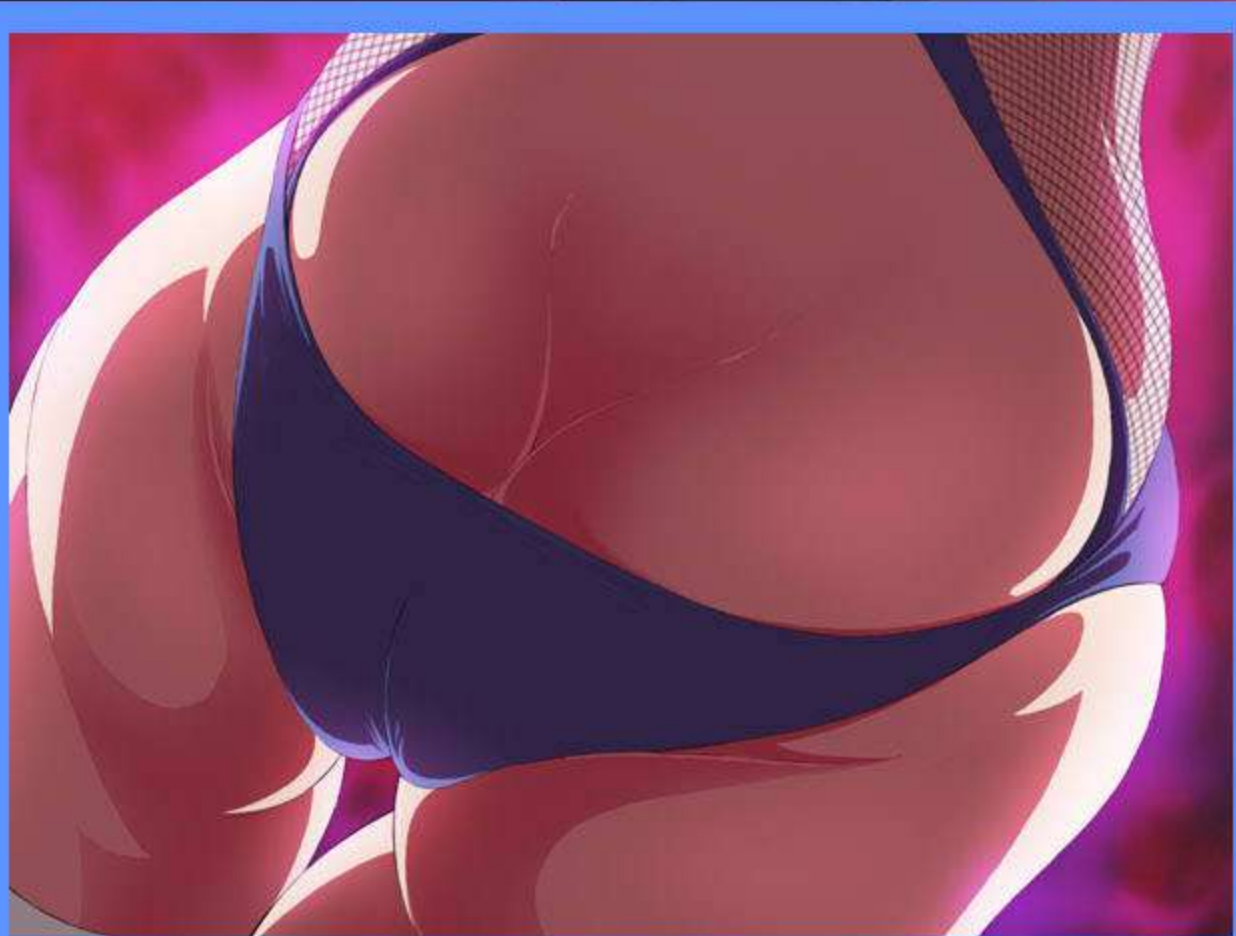
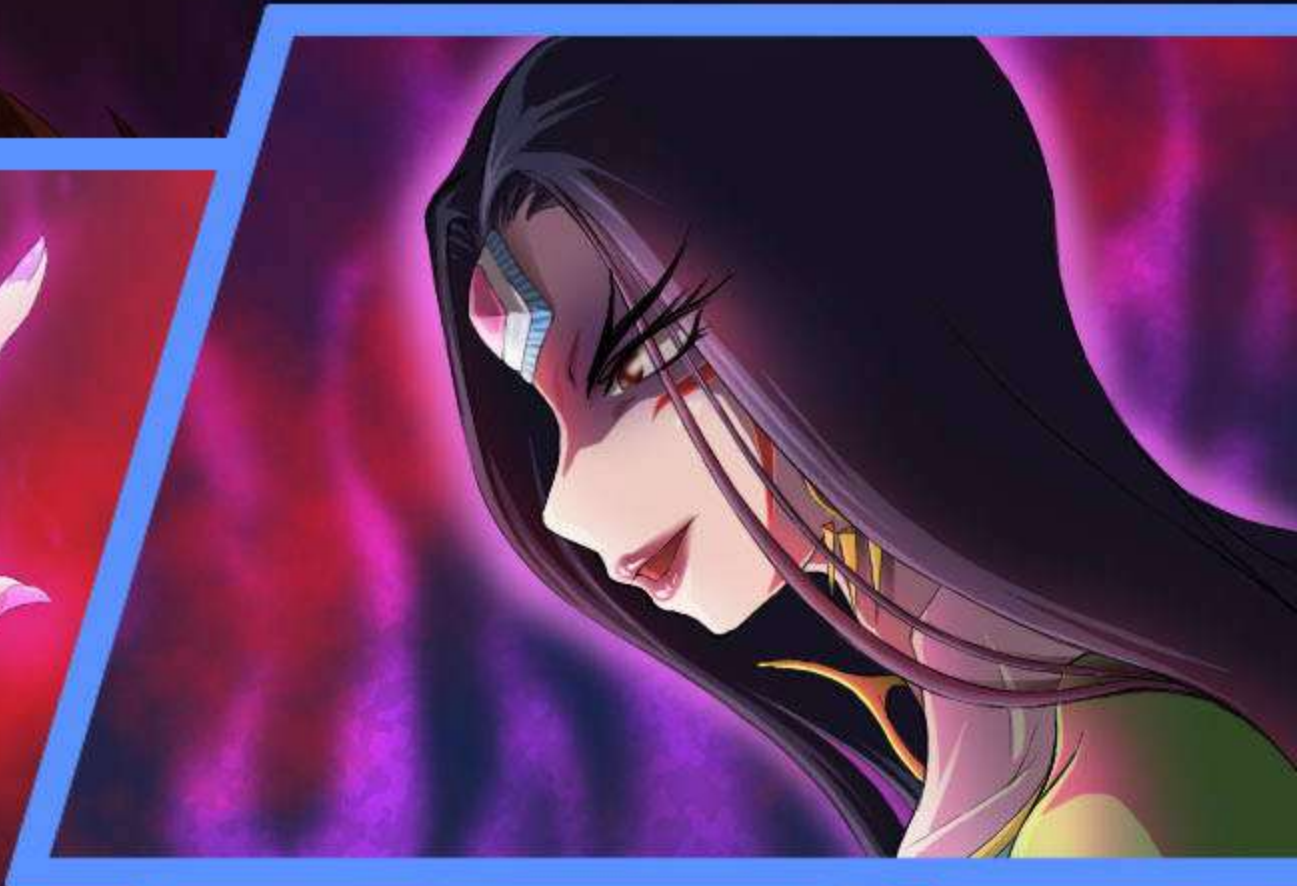


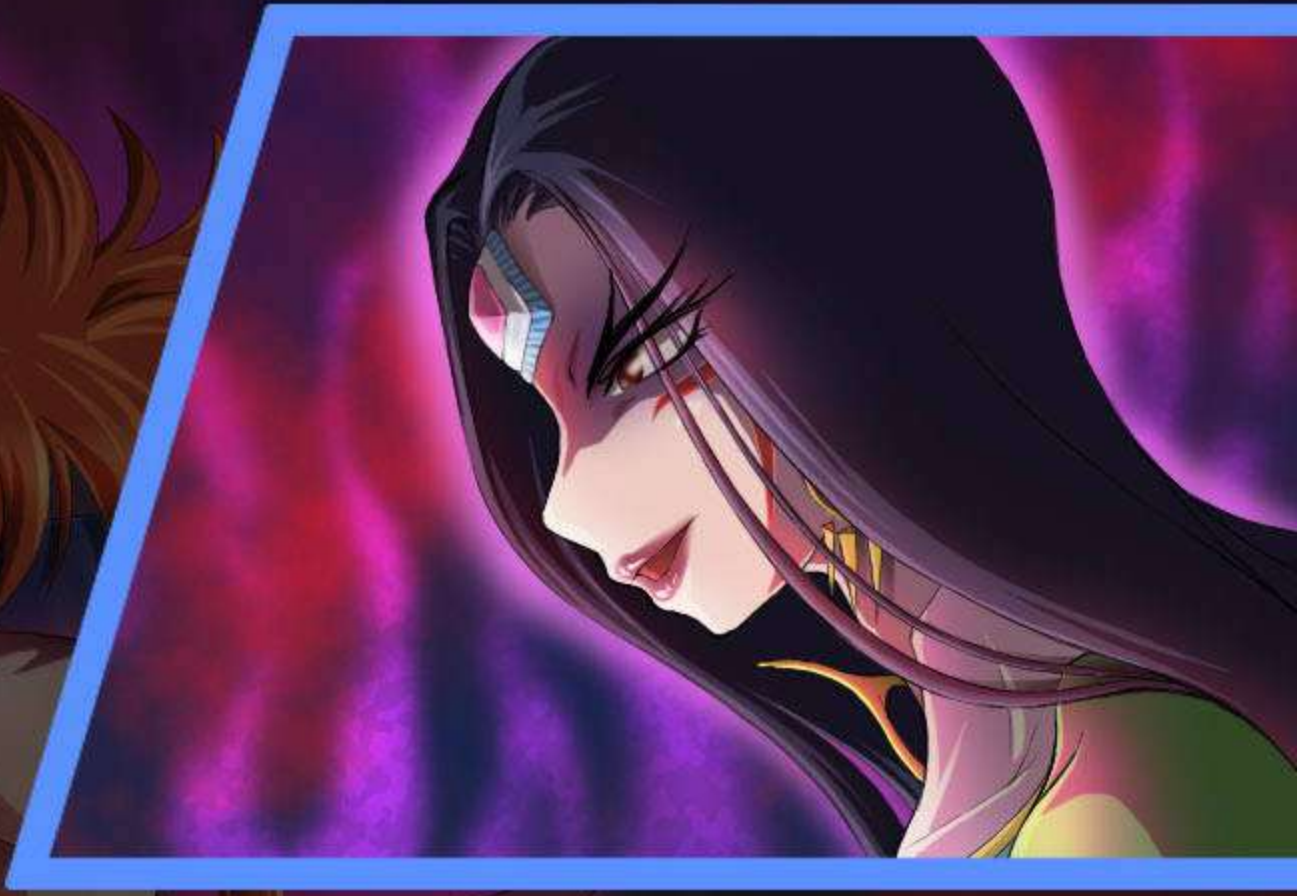












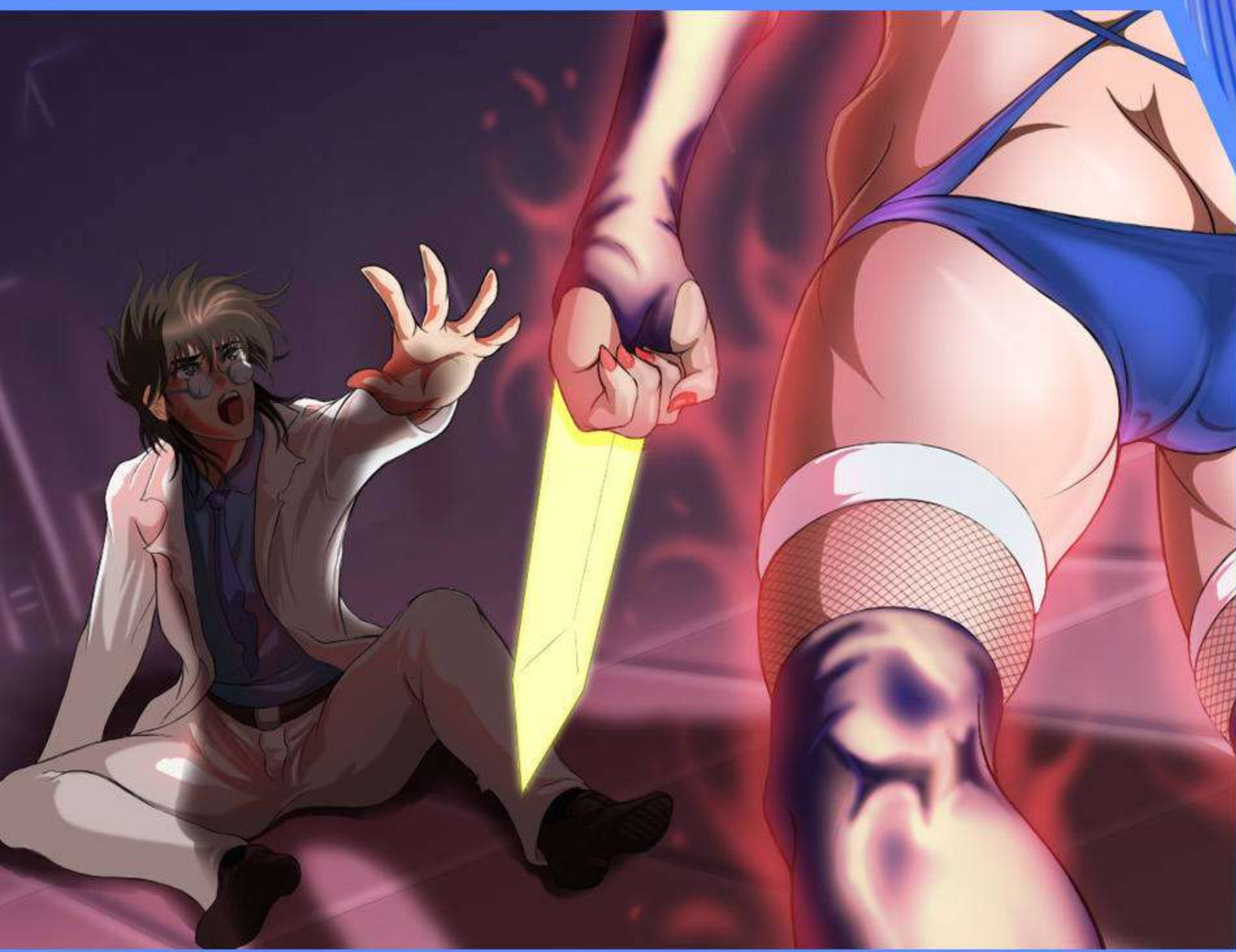














END